

令和 6 年第 16 回

札幌市教育委員会会議録

令和6年第16回教育委員会会議

1 日 時 令和6年8月5日(木) 10時30分～17時40分

2 場 所 STV北2条ビル6階 A・B会議室

3 出席者

教 育 長	山 根	直 樹
委 員	阿 部	夕 子
委 員	佐 藤	淳
委 員	石 井	知 子
委 員	道 尻	豊
委 員	中 野	倫 仁
教育次長	廣 川	雅 之
生涯学習部長	井 上	達 雄
学校教育部長	佐 藤	圭 一
教科用図書選定審議会委員	高 桑	陽 子
教科用図書選定審議会委員	大 巻	太 一
教科用図書選定審議会委員	高 橋	智 子
教科用図書選定審議会委員	三 浦	敦 司
教科用図書選定審議会委員	寺 田	晋 哉
教科用図書選定審議会委員	丸 山	未 来
教科用図書選定審議会委員	河 合	博 子
教科用図書選定審議会委員	森 岡	香 子
教科用図書選定審議会委員	長谷川	寿
教科用図書選定審議会委員	高 橋	慶 之
教科用図書選定審議会委員	佐 藤	雅 哉
教科用図書選定審議会委員	吉 田	卓 矢
高等学校・中等教育学校後期課程部会	尾 崎	茂 樹
教科用図書選定審議会委員	久 保	和 也
教科用図書選定審議会委員	坂 間	卓 朗
特別支援教育部会部長	荻 澤	吐 夢
教科用図書選定審議会委員	石 川	大 地
教科用図書選定審議会委員	工 藤	雅 文

児童生徒担当部長

総務課長

庶務係長

書 記

喜多山 篤

千 田 博 史

新 井 達 之

滝野沢 由希奈

4 傍聴者 24 名

5 議 題

協議第 1 号 令和 7 年度使用教科用図書の選定について

【開 会】

○山根教育長 これより令和6年第16回教育委員会会議を開会いたします。
本日の会議録の署名は、石井知子委員と道尻豊委員にお願いいたします。

【議 事】

◎協議第1号 令和7年度使用教科用図書の選定について

○山根教育長 それではこれから協議第1号「令和7年度使用教科用図書の選定について」の審議を行います。本日は、これまでの2回の審議を受けて、中学校用教科書の選定について審議を行うとともに、高等学校及び中等教育学校後期課程用教科書並びに特別支援教育用教科書についても選定の候補が挙げられておりますので、審議を行います。

○山根教育長 中学校用教科書については、国語、保健体育、道徳、数学、理科、外国語、音楽、美術、技術家庭、社会の順に審議を進めていきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

（「はい」と発言する者あり）

○山根教育長 それではこの順で進めていきたいと思います。まず、本日の審議に入る前に、前回までと同様、私から委員の皆さんに確認させていただきたいことがあります。

教科書採択の任を負っている私達は、札幌市の教科書採択の公正・中立性をしっかりと確保しなければなりませんので、委員の皆様に変更確認させていただきたいことがあります。

委員の皆様の3親等以内の親族に教科用図書会社に勤務されている方がいらっしゃるかどうか、及び前回の審議以降、特定の組織や団体、あるいは会社等から働きかけや影響力の行使、また圧力等はなかった、ということによろしいでしょうか。

（「なし」と発言する者あり）

○山根教育長 ただいま皆さんから、影響力の行使や圧力等はなかったとの回答をいただきましたので、本日の私達6人による協議は、教科書採択の公正・中立性を確保するものであると判断いたします。

○山根教育長 続きまして2点確認したいと思います。前回までの審議におき

まして、中学校部会の各小委員会委員長に、特定の組織や団体、あるいは会社等から働きかけや影響力の行使、圧力等がありませんでしたか、との質問をしましたが、いずれもありませんとの回答でしたので、調査研究に対する圧力等はなかったものと改めて確認させていただきます。

また、前回までの小委員会委員長などの意見につきましては、学校教育に携わる専門的な見地からの発言として、本日の審議においても参考したいと思います。皆さんこの2点についてよろしいでしょうか。

(「はい」と発言する者あり)

○山根教育長 なお、本日は、審議会委員でもある各担当指導主事に出席を求めていますので、審議の中で必要があれば随時質問をしていただきたいと思います。

○山根教育長 それでは、中学校用教科書についての審議を始めます。本日の審議では、前回までの審議において選定の候補とした教科書から1者を選定いたします。

これまでもそうですが、各教科書の特長などから、札幌の子どもたちにとってどの教科書がより望ましいかという点を大切にして審議していきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。それでは、まず国語と書写から審議を始めます。

○山根教育長 はじめに、国語です。前回の審議におきまして、「東書」「光村」2者を選定の候補といたしましたので2者から1者を選定いたします。

まず、前回の審議における小委員会委員長の報告や質疑応答の内容を私なりに整理してみますと、国語におきましては、札幌の子どもたちの課題から、根拠を明確にして自分の考えを表現することを促す工夫、ということについて各委員から質問や意見がございました。小委員会委員長からは、課題探究的な学習において、子どもが主体的に取り組むことが可能な内容かどうか、という視点について各教科書の特長や違いが見られるということでありました。

では前回の審議を踏まえまして、さらに各委員からご質問があればお願いしたいと思います。

○山根教育長 よろしいでしょうか。それではこれまでの審議を踏まえまして、札幌の子どもたちにとってどの教科書がより望ましいかということについて、

各委員からご意見をお願いいたします。

○道尻委員 国語につきまして、言葉による見方や考え方を働かせることや、言語活動が重視されますが、基本的な部分としては、まず学習の流れを掴んで自分の考えを形作り、それを表現し解決するということは、各者当然そういう工夫はされているのですが、「光村」には少し分かりやすいところがありました。また、私が着目したのは ICT の活用という部分で、文書作成ソフトのコメント機能などを使いながら、意見を伝え合うというような活動が紹介されていたり、ICT 活用のヒントというものが示されたりしております。これから社会に出る前の学生時代からも、大切なことを学べるのではないかと思います。市民意見を見ましても、「光村」が学びやすくできているという意見が複数ありまして、そういったようなところも評価されているのかなと思いますので、私は「光村」が良いのではないかと思います。

○石井委員 私も道尻委員と同意見で「光村」が良いのではないかなと考えております。

課題探究や根拠をもとに自分の考えを明確に言葉で表現する活動などは「東書」も優れていると思いましたが、ワーク 2 の言語文化に関する学習の取扱いや札幌市でも重視している読書に関する学習の取扱いの部分で、私は「光村」が優れているのではないかなと思いました。

まず、「我が国の言語文化に関する学習の取扱い」の部分ですが、古典の部分に注目をしました。例えば、1 年生では両者とも「竹取物語」を取り扱っているのですけれども、「光村」の着眼点が非常に面白く、貴公子たちの失敗談という人物に着目した部分が非常に面白いなというふうに思いました。また、失敗談を取り上げたこと以外にも、日本語の面白さを感じることができるよう言葉遊びといった部分も取り扱っていて、中学校に入って古典に苦手意識をもつ子どもも多いかと思いますが、「光村」の取り上げ方は非常に面白く、子どもたちが興味をもつことができるのではないかなと思いました。

また、「我が国の言語文化」という部分については、語彙ブックもあり、こちらは市民意見にもありましたが、非常に日本語の美しさや豊かさを感じることができるのではないかと考えております。

もう 1 点、読書に関する部分も「光村」が優れているかなと思いました。読書に関する様々な活動を紹介しているのが「光村」の特長と思っておりまして、全学年において「読書を楽しむ」や「感想を交流する」など、読書ライフを楽しむ

ための活動が掲載されていました。先月中学校に視察に行った際に中学生の子どもたちと意見交流をしたところ、かなり教科書を参考にしながら読書活動をしているという声もありました。なので、こういった読書活動に関する部分が重点的に掲載されている「光村」の教科書が非常に良いのではないかなと思いました。

最後に1点、先ほど道尻委員がおっしゃっていたのですけれども、いろいろなところにICTの活用場面などが紹介されていることが非常に多いなと思いました。以上です。

○阿部委員 私も皆さんと同じ考えで「光村」がいいと思っております。特に1年生138ページに「思考のレッスン」という情報の扱い方に関するページがあります。意見と根拠の違いをはじめ、根拠がないとどうなるのか、考えを根拠にするとどうなるのか、事実を根拠にするとどうなるのかなど、とても丁寧に説明されているところが、非常に長けているなと思っております。私達大人でも、意見は言えても何を根拠にその意見を述べているかということについてはなかなか説明しにくい部分が多いと思いますが、それをわかりやすく、ステップを踏みながら学べるところが非常にいいなと思っております。

もう1点ですが、見開きの右側の方に「学びへの扉」がありまして、わかりやすく学習の構成を捉えられるようになっております。見通しをもって学習を展開できる構成になっており、こちらについても評価できると感じております。以上です。

○山根教育長 ありがとうございます。

○佐藤委員 私は論理的思考に導いてくれるような内容に注目して見ていました。その点については、やはり「光村」が1番手厚いかなと思います。国語の2年生121ページの「論理を捉えて」が章になっていて、論理的思考に関する教材の厚みがあります。これは各学年存在しておりますが、この点で「光村」が長けていると思いました。

○中野委員 私も「光村」が良いと思います。内容については、各委員がおっしゃっていることに同意ですが、それに加えて、「季節のしおり」というところで、日本語の美しさを各学年に向けて紹介されています。情緒的な日本語というものを学習してもらいたいと思いますので、この点が評価できると思います。

○山根教育長 ありがとうございます。それでは、意見が大体合致したようでございます。国語につきましては「光村」が札幌市の子どもたちにとってより望ましいのではないかと思われますが、いかがでしょうか。

（「はい」と発言する者あり）

○山根教育長 それでは、国語につきましては、「光村」を選定することといたしたいと思います。

○山根教育長 次に書写について審議を行います。前回の審議におきまして、「東書」「教出」「光村」の3者を選定の候補といたしましたので、3者から1者を選定いたします。

まず、前回の審議における小委員会委員長の報告や質疑応答の内容を私なりに整理してみますと、書写におきましては別冊の取り扱い、あるいは文字文化に関する内容について各委員からご質問ご意見がございました。小委員会委員長からは、課題探究的な学習の取り扱いと、我が国の言語文化に関する学習の取り扱いの視点において、各教科書の特長や違いが見られるということでありました。これは前回の審議を踏まえまして、さらにご質問がございましたら、お願いいたします。

○山根教育長 それでは私の方からよろしいでしょうか。前回の審議でも論点として取り上げる方が多かったのですが、調査研究の観点でもある我が国の言語文化に関する学習の取り扱い、とりわけ生涯にわたって文字文化を大切にしようとする態度を身に付けるという観点がございしますが、これらについて改めて各者の特長があれば教えていただけますでしょうか。

○教科用図書選定審議会委員 それでは、3者についてお答えしたいと思います。

まず「東書」においては、文字の特長や、歴史を紹介するといったところが多くあるかと思います。例えば 16 ページのコラムをご覧ください。「手書き文字と活字」というところで、各者このように手書き文字や書体の比較は載っているのですが、こちらのページでは、明朝体の始まりを歴史とともに紹介しております。また、手書きの文字が少なくなっている現状に関し、活字と手書きの比較を示しているという特長があります。

続いて「教出」36 ページを御覧ください。「文字の変遷」ということで、様々な歴史が紹介されています。一つ一つの文字を取り上げつつ、どのように変わっていったのかというところを、歴史を紐解くような形で紹介しているということが特長に挙げられます。また、24 ページのコラムをご覧ください。文字だけではなく、こうした用語についての歴史を紹介しているところが特長となっています。

続いて「光村」では、コラムで多様な文字を紹介しているという特長があります。例えば、62 ページをご覧ください。「季節のしおり」というところで国語との関連を図っており、実際に文字を書く活動において、行書と楷書で書くといった特長を出しています。前回の話題にも上りましたが、手書きの良さについて、子どもたちがイメージをもちやすい漫画の形で示していたり、コラムにおいて96 ページ、ユニバーサルデザインフォントというものを見開き1 ページを使って紹介したりしています。こちらには様々な身近なUDフォントが示されており、生徒たちが自分たちの身近にある文字に着目しながら、もう一度周囲の環境を振り返るような活動が想定されます。以上です。

○山根教育長 「光村」が漫画で紹介しているのは何ページでしたか。

○教科用図書選定審議会委員 88 ページです。

○山根教育長 ありがとうございます。その他ご質問等ございますでしょうか。

○山根教育長 それではこれまでの審議を踏まえまして、札幌の中学生にとってどの教科書がより望ましいかということにつきまして、各委員からのご意見をお願いしたいと思います。

○阿部委員 私は「光村」が良いと思っております。まず、課題探究的な学習の取扱いというところで、全学年において、「考えよう」、「確かめよう」、「生かそう」という学習展開になっていて、非常に分かりやすいものになっております。

また、前回も少しご質問させていただいた通り、書写ブックというものが添付されていて、活用がしやすいというご意見がありましたので、評価しております。

先ほど教育長からも質問がありました、「我が国の言語文化に関する学習の取扱い」というところでは、88 ページの漫画で「手書きの良さってなんだろう」という身近な題材を扱っていて、非常に興味関心を引く内容になっているとこ

ろから、「光村」がいいと考えました。以上です。

○石井委員 私も「光村」が良いのではないかなと考えております。先ほど阿部委員からもありましたが、課題探究というところで、まず学習の流れが非常にわかりやすいということ、また、「我が国の言語文化」という部分でも、「光村」が非常に良いのではないかなと思っております。例えば78ページの楷書と行書の使い分けというところでも、「手書き文字の良さ」について誰に宛てて書くのかという部分を考えさせてくれる題材があるのが「光村」だと思いました。

あと、88ページの手書きの良さを考える活動について、漫画の導入によって、子どもたちにとって身近なものであると考えられるようになっているのも非常に良いなと思いました。以上です。

○道尻委員 私も「光村」が良いと思います。先ほどご説明いただいた各者の特長をお聞きすると、それぞれそういうことも学べるのが良いと思います。また、全体的なこととして、お子さんに興味をもってもらい、考えて学習に繋げていくことが大切であると考えたときに、身近な素材を使って、漫画も含めて分かりやすい書き方で学びを構成しているというところに一つ秀でたところがあると思うので、「光村」が良いのではと感じております。

○中野委員

私は「光村」と「東書」で悩んでいます。現在、使われている「光村」の書写ブックの存在や、各委員がおっしゃっている利点もございますので、候補は「光村」をもう一度選ぶということで意見は同じです。

○佐藤委員 私は日常への活かし方という点と、言語文化という点の2点で見えておりました。各者甲乙つけがたく、それぞれ工夫がなされているのですが、言語文化ということの内容に若干他者に比べて深みがあるように感じる「光村」1者を推したいと思います。

○山根教育長 ありがとうございます。書写につきましては皆さん「光村」ということですが、「光村」が札幌市の子どもたちにとってより望ましいのではないかということでよろしかったでしょうか。

(「はい」と発言する者あり)

○山根教育長 それでは書写については「光村」を選定することといたします。

○山根教育長 続きまして保健体育について審議を行います。前回の審議におきまして、「東書」「大修館」「学研」の3者を選定の候補といたしました。この3者から1者を選定いたします。

まず、前回の審議における小委員会委員長の報告や質疑応答の内容を私なりに整理させていただきます。保健体育におきましては、多様性や感染症の取り扱いの他、運動習慣の健康への影響に関する記載について各委員から質問がありました。小委員会委員長からは、課題探究的な学習の取り扱いや、運動と健康の関連についての取り扱いの視点において、各教科書の特長や違いが見られるということでありました。

これら前回の審議を踏まえまして、さらに各委員からご質問がございましたら、よろしくお願いいたします。

○山根教育長 よろしいでしょうか。

○山根教育長 それでは、これまでの審議を踏まえまして札幌の子どもたちにとってどの教科書がより望ましいかということにつきまして、各委員からのご意見をお願いしたいと思います。

○佐藤委員 前回の審議で私から、性の多様性についての記載はどうかという質問し、ご回答いただきましたが、性の多様性については保健体育の学習指導要領外であるということを確認いたしましたので、それを外して1者申し上げたいと思います。私は「大修館」がいいのではないかと思います。

各者、節が見開きにまとめられている工夫が保健体育の教科書ではなされておりますが、1番「大修館」が見開きのまとまりが良くて見やすいというふうに私は感じました。また、章のまとめが非常に良く、この中で選ぶとすれば「大修館」と思います。

○石井委員 私も「大修館」がよいのではないかと考えております。まず、課題探究という点で、課題をつかむ、からの学習のまとめが非常にわかりやすいと思いました。前回の会議の際に、札幌市の子どもたちの保健における課題として、健康な生活と運動などの効率的な繋がりを感じて実践すること、実践する態度

を養うことだと仰っていたと思うのですが、その点でも「大修館」は64～67ページでスポーツや運動の健康増進やストレス軽減の効果、子どもたちが他者と比較せずに自分に向き合って体力向上のために考える、計画する、自主的に運動しようという態度を養うことができる教科書であると思っております。そういった点は、この札幌市で重視しているウェルネスの観点からも非常に合致していると思っております。以上です。

○阿部委員 私も皆さんと同じ「大修館」と思っています。特長的なところとしては、例えば43ページ下のところで、グループで話し合う活動が設定されております。このような記載は「大修館」は非常に多いと思います。また、85ページに学習のまとめというところで、例えばがんになる可能性があるということだと思うのですが、私のお父さんは塩分を取り過ぎているかも、という考えに導くような課題探究に繋がる設問が多いと思いました。そのような点から「大修館」を推したいなと思います。

○中野委員 私も結論から言うと「大修館」がいいのかなと思います。前回は申し上げましたが、緊急事態のときは安静体位を右下にしているというところが正しいのかなということと、ストレスとリラクセーションのところの説明が詳しいということです。ただ、「大修館」25ページに、「中学生の生活には早寝早起きの睡眠習慣が適しています」と書いてあり、これはかつてそう言われていましたが、今は早寝早起きが本当にいいのかということは議論があります。小学生は多分早寝早起きでいいと思うのですが、中高生になってくると、そうでもないのではないかという節があり、気になりましたが、そこは目くじらを立てることもないと思ひまして、総じて「大修館」を選ぶということで異論ございません。

○道尻委員 私も「大修館」がよいと思います。他の委員の皆さんが仰ったところに加えて、1つだけ指摘しますと、コラムなど、実際の社会の中のエピソードや取組が紹介されていて、同じことは各者とも書かれておりますが、ストレスや病気のことも考えたり、感じたりできる教科書ではないかなと思っております。

○山根教育長 ありがとうございます。皆さんのご意見によりますと、「大修館」がより望ましいのではないかということかと思いますが、いかがでしょうか。それでは保健体育につきましては、「大修館」を選定することといたします。

○山根教育長　続きまして、道徳について審議を行います。前回の審議において、「東書」「光村」「学研」の３者を選定候補といたしました。この３者から１者を選定いたします。

前回の審議における小委員会委員長の報告や質疑応答の内容を私なりに整理しています。道徳においてはいじめに関する取扱いや教材文の後に示されている問いの設定などについて、各委員から質問や意見がありました。小委員会委員長からは、課題探究的な学習における授業の導入とテーマに迫る問いの構成や、いじめに関する学習の取扱いにおけるいじめの定義や法律の掲載、これらの視点において各教科書の特長や違いが見られるいうことでありました。これ前回の審議を踏まえまして、さらに各委員からご質問がございましたらお願いしたいと思います。

○中野委員　いじめについて、改めて３者を読み直すと、「光村」と「東書」は各学年３教材連続して集中的に学ぶ構成になっていますが、「学研」は全体的にいじめについての間接的な教材・直接的な教材が散らばって配列されております。実際指導するにあたって集中的に取り扱う方がやりやすいのか、それともバラバラと直接的な教材・間接的な教材を含めて、絶え間なく学習した方がいいのかわからなかったため、具体的にはどのようにご指導されているのでしょうか。

○教科用図書選定審議会委員　まず、各者の目次をご覧いただきながらご説明をさせていただければと思います。

「光村」の目次は、「いじめを許さない心について考える」として、連続して３教材取り扱うような構成になっております。

また、「東書」も、「いじめのない世界へ」として３教材連続して取り扱っております。

「学研」は目次の中でどれがいじめの教材と明記されてはいないものの、１年間で、６教材ないし７教材はいじめの教材を取り扱っているという特長がございます。今、ご質問いただいた連続して取り扱うことと、年間を通してバラバラ取り扱うことの違いについてですが、連続して取り扱う部分につきましては、例えば３教材ですと、実質３週連続していじめに関連する教材を取り扱うというようなイメージになります。

いじめについて、様々な内容項目で連続して学習することで、いじめについて様々な角度から考えることは、可能になっていると思います。

一方で、１年間で適宜いじめに関する教材を取り扱うことにおいては、それぞ

れのタイミングで取り扱うことで、その都度いじめについて考えることができる効果があると考えております。

○中野委員 直接的に扱う教材と、いじめの要素もあるけど、間接的に扱う教材もあると思うのですが、ぱっと読んでいじめを扱っているのかどうか下の方のマークを見ないと分からないというところが何力所かあったので、直接・間接の違いはどのように考えられますか。

○教科用図書選定審議会委員 教材によって、いじめの加害者被害者にスポットが当たったような教材もあります。例えば、「東書」で言うと、1年生の5番の傍観者でいいのか、というあたりは、実際のいじめの加害者被害者とともに傍観者というところに視点が当てられている教材になっています。

また、「光村」においては、3年生の36から45で3教材取「3年目のごめんね」という教材では、実際にいじめをしてしまった子ども、いわゆる加害者側をスポットに当てた教材になっています。

各者においていじめに関連する教材を3教材4教材を取り扱う中で、どこにターゲットを置くか、加害者・被害者だけでなく、いわゆるいじめの4層構造という部分では傍観者の部分や観衆に当たる部分についても教材文で取り上げたり、あるいはコラムで取り上げるなど、全体的にいじめについて子どもたちが考えることができるような教材構成になっていると考えます。

○山根教育長 よろしいですか。他、ございますでしょうか。

○阿部委員 道徳の目標については、物事を広い視野から多面的・多角的に考えることができると思うのですが、道徳の場合、みんなで意見交換をしたり、1つの答えにたどり着くよりも、答えは1つじゃないから、いろんな意見が出てもいいというような考え方でよろしいのでしょうか。

○教科用図書選定審議会委員 そうですね。道徳については何か1つの答えにたどり着くということではなく、子どもたちが様々なテーマについて道徳的価値の理解を基に、様々な考え方があるということを理解することが大事です。

例えば、道徳的価値が理解されていたとしても、日常の場面においては、複数の道徳的価値が対立する場面に直面するが、これから出てくるとは思います。そのときに適切な道徳行為が取れるように、いろんな場面を想定して、いろんな考

え方をここで学習していくことがポイントかと思いますので、何か1つの答えに決めるということは、授業の中ではございません。

○阿部委員 ありがとうございます。その中で「光村」では、最初の導入ページに、「道案内」というコーナーがあると思うのですが、その中で、答えは1つではない、という言い切りの部分があります。そのあたり、他の教科書発行者はどのような表現になっているのでしょうか。

○教科用図書選定審議会委員 いわゆるオリエンテーションの部分で、道徳科はどのように学んでいくのかというのは、各者取り扱われているところです。

「光村」では、先ほどのお話のように、「道案内」という形で掲載をされています。「東書」は、「道徳科とは」としてオリエンテーションのページで道徳科のねらいや目標、学び方なども掲載をされています。

また、「学研」も同じように、オリエンテーションとして道徳科の考え方や学び方というようなことも掲載をされているところでございます。

いずれの教科書においても、道徳科は多面的・多角的に考えるという部分について同様に記載されております。

○阿部委員 ありがとうございます。道徳の多面的・多角的に考えると考えたときに、最終的に自分だったらどう考えるだろうかというところの、自分だったら、というところは、どの教科書もポイントになっていると思っております。

私の見立てとしては、「光村」については、自分だったらというのも考えるのですが、その中に他者もいて、自分だったらどうだろう、他の人はどう考えるのだろう、とより多面的・多角的な考え方にたどり着けるようなアプローチが長けている印象があるのですが、他の教科書発行者はどうでしょうか。

○教科用図書選定審議会委員 問いの構成という部分では、各者において道徳的価値に迫るもの、そして自分との関わりについて考えること、それから多面的・多角的に考えるという部分で構成をされている部分ではあるのですが、おっしゃるとおり、「光村」については考えようという部分でテーマを示すとともに、道徳的価値についての理解を促すような問いの他に、「見方を変えて」、「つながよう」として、子どもたちの思考がより一層多面的・多角的分に広がっていくような問いが設定されております。

「東書」についても、学び方という部分では、基本的な問いの設定としては、

考えを見つめよう、ぐっと深めるといような問いの構成が多くなっております。教材によっては、書き込み形式で、様々な思考が生まれるように、例えば1年いじめの初めの教材ですが、いじめに当たるのはどれだろうということで、問いも複数準備していて、様々な角度から子どもたちが考えられるような構成になっているものもございます。

また、「学研」については、深めようというページが各学年5・6教材程度準備されており、こちらについては、その他の教材は、考えようの2つの問いなのですが、深めようが掲載されている教材については、考え方の道筋がより見える形で思考が深まる構成になっているといった特長もございます。

○山根教育長 他にございますでしょうか。

○山根教育長 それではこれまでの審議を踏まえまして、札幌の中学生にとってどの教科書がより望ましいかという点につきまして、各委員から意見をいただきたいと思います。

○阿部委員 私は「光村」がいいと思っています。多面的・多角的な考え、多様な考えをもつということが道徳では大切かと思うのですが、「光村」の場合はポイントの1として、答えは1つではないということを最初に言い切っており、ポイントの2のところでは、自分と向き合い、他者と向き合うとなっております。自分だったらどう考えるかというのは1つのゴールだと思うのですが、多面的・多角的と考えたときに、自分の考えもあるけど他の人はどう思うのだろうと考えることは大事だと思います。他の教科書は、自分だったらということがゴールになっている印象が私にはあったので、そういう意味からも、この2つのポイントを、非常に重要として考えていただいていると思いました。

それから、コラムとして、なんだろうなんだろうというコーナーがあります。1年生の82ページで、答えを出さずに、最終的に正義って何だろうというところで終わっております。これは多様な考えで、自分だったら正義ってこう考えるけど、他の人はどう思うのかっていうのを、答えは出さないけど、考えるきっかけを作っているのも、1つ特長になっていると思います。

前回のときに、振り返りの時間はどれくらいあるのか、どのくらい大切なのかを確認したときに、2、3問程度は必要ということで、その中でも「光村」の場合は多様な質問が繰り広げられていて、「見方を変えて」「つなげよう」として、多面的・多角的な考え方にたどり着けるような構成になっていると思います。

これらの理由から私は「光村」がいいのではないかというふうに思います。以上です。

○道尻委員 私も「光村」がいいと思います。阿部委員がおっしゃったことも同感ですが、市民意見を見ましても、「光村」を推す意見が多数を占めております。内容を見ましても、話し合い活動のページが多いこと、また、道徳の場合、教科書を読むだけではなくて実践をして具体的なことを意識する、あるいは行動に繋げることが大事だと思いますが、そういう構成が取られているということ、それから問いが適切であることや自分たちで考える教材であるという意見もありました。また、北海道に関連してアイヌの歌を歌いたいという教材、これを評価する声も私が見た中では3意見ほどありました。以上の点から、私も「光村」が良いと思います。

○山根教育長 ありがとうございます。

○石井委員 私も「光村」が良いのではないかと考えております。他の委員もおっしゃっているように、問いがやはり良いなと考えております。「見方を変えて」や「考えよう」、「つなげよう」という問いが、非常に自分との関わりについて多面的・多角的に考えることが可能なのではないかなと考えております。

また、いじめについても早い段階から取り扱っているところやいじめの構造について、他者も被害者や加害者、観衆・傍観者ということを取り上げているのですが、「光村」は1年生の46ページで、いじめの構造は入れ替わる可能性があるということも心に留めておこうとの記載があって、ここは他者にはない記載かと感じました。以上になります。

○中野委員 私は、「学研」の題材もいいと思っておりましたが、もう一度読み直して、先ほど質問したとおり「東書」、「光村」ではいじめを扱っていることがはっきりわかる題材が3つ並んでおり、「学研」は分散されております。右下の方にいじめというロゴが出ていて、そこでいじめの題材と気付くようになっており、明らかにこれはいじめを扱っているということがわかる題材と、間接的な部分が混ざっていて、分かりづらいように思いました。生徒にそれが響くのかなというところが、少し曖昧だったので、「学研」を外させていただきました。

「光村」、「東書」にはあまり差がない気がしており、他の委員がおっしゃる「光村」がいいという確信は強く持てません。私の意見としては、「光村」「東書」の

両者にそれほどの差がないので、皆さんが「光村」という意見がおおければ、「光村」にしたいと思います。

○佐藤委員 私も中野委員と同じく３者を残しましたが、この３者は他と比べて考えさせる題材が多いと思います。中野委員がおっしゃったように、私も前回発言しましたように「学研」の題材にいいものがあるなと思ったのですが、やはり教室の中での活動を考えたときには、「東書」「光村」の方が優れているかなというふうに思います。それで「東書」「光村」で非常に悩んでおります。阿部委員のご指摘のように、確かに「光村」は答えは１つではないと、明確に巻頭に出てくるのですが、実は「東書」も、巻頭のところであまり目立ったりませんが、道徳科の時間は正しい答えを見つける時間ではありません、と最初の一行で明言しております。そこはあまり差がなく、両者とも言うてみれば道徳というものは自分の生き方を見つけるイコール自分の哲学っていうものを持つということだと思いますが、そういうことが目指されている教科書なのかなと思いました。

私としては違いがあるとすれば、中野委員のご指摘のように、いじめの取り扱い方に「光村」と「東書」に大きな違いがあるなど。

「光村」はどちらかというとき少し深く考えさせるような流れで、教材の配置というものが構成されているのに対して、「東書」は教室の中で往々にしてどこでも起こりうるようないじめというものを取り上げて直接内容を紹介しております。私が注目したのは、１年生の２２ページにある、「いじめに当たるのはどれだろう」という教材です。いじめに当たる行為について、日常の教室場面を直接取り上げて、いじめの罪深さがわかりやすいのは「東書」だと思います。

ただ、そうした方がいいのか、「光村」のように、もう少し将来にも繋がるような形で、人間関係の本質というものを考察させるような教材がいいのか、私としても判断がつかないところです。今、ご意見を伺ったところ「光村」が良いとすぐご意見が３人いらっしゃいますので、他の委員のお話を聞きますと、やはり「光村」のほうが札幌市の子どもたちにとって適切なのかなと思います。

○山根教育長 ありがとうございます。ちなみに小委員会で、今佐藤委員がおっしゃった「光村」と「東書」のいじめの取扱いの違い、直接的な内容の表現ないし生徒に深くさせるという、小委員会ではその辺何か意見の交換のようなものはあったでしょうか。

○教科用図書選定審議会委員 お話のとおり、「東書」はどちらかというとき、直

接的に取り扱った教材が多く配列されているという特長がございます。

一方、「光村」ではいじめについても、人権をベースに作られているところが特長的だと思います。「光村」の場合、いじめは人権侵害行為であるという視点から人権意識を高めるというところにおいて、人権コラムを3学年共通して作っており、人権ベースでいじめも防止していくという考え方になっております。「東書」に比べると、直接的に取り扱っているというよりかは、少し幅広に取り扱った教材になっている特長があると、小委員会でも話題になっておりました。

○山根教育長 授業を展開する上では、どちらがどうということはあるのでしょうか。

○教科用図書選定審議会委員 授業を展開する上でこちらが良くてこちらが悪いというようなことはもちろんございません。

ただ、いじめについて考えるとなったときに、いじめだけにスポットを当てることがいじめの防止に繋がるということではなく、子どもたちが多様性を認めて、自分も自己肯定感を高められたり、あるいは他者を認めることができたり、そしていろんな人がいて、学級が成り立っているという感覚を持ち、安心して学級が生活できる空間になることが大切です。様々な教材でいじめについてアプローチしていくというようなことが必要だと、小委員会で話題にはなっておりました。

○佐藤委員 直接的な現象を題材に、今ある日常と比較してっていうことも大事だとは思いますが、やはりいじめは人権侵害であるということは防止対策基本法にも明記されていることなので、子どもたちにここを伝えるべきだと私も思いますので、そういった観点からも幅広く人権というものについて考察させる「光村」を推したいと思います。

○山根教育長 「光村」「東書」という案も良いというご意見もございましたが、中野委員よろしいでしょうか。

○中野委員 私はそこまでの差がないとなれば、皆様方のご意見を踏まえまして、「光村」で結構です。

○山根教育長

これまでのご意見から総合的に判断しますと、道徳につきましては「光村」がより望ましいのではないかと思われますがいかがでしょうか。

(「はい」と発言する者あり)

○山根教育長 それでは道徳につきましては「光村」を選定することといたします。

それでは少し早いですが、ここで休憩としたいと思います。再開は1時間後、12時半ということでよろしいでしょうか。

(「はい」と発言する者あり)

○山根教育長 12時半に数学から再開ということにしたいと思います。よろしく願いいたします。

(休憩)

○山根教育長 少々早いですが、皆さんお揃いですので再開してよろしいでしょうか。それでは審議を再開したいと思います。次は数学について審議を行います。

前回の審議におきまして、「東書」「学図」「教出」「啓林館」の4者を選定の候補といたしましたので、この4者から1者を選定いたします。

はじめに、前回の審議におけます小委員会委員長の報告や質疑応答の内容を私なりに整理してみますと、数学においては既に学んだことの振り返りや、数学が苦手な子どもへの配慮などについて、各委員からご質問やご意見がございました。小委員会委員長からは、課題探究的な学習における学びのプロセスや日常と数学の繋がり の視点において、各教科書の特長や違いが見られるということでありました。

それでは前回の審議を踏まえまして、さらにご質問がございましたら、お願いいたします。

○中野委員 1年生で多角形の話が出てくると思うのですが、教科書の後ろに付録として多角形を立体化できるという教材が「東書」と「教出」に載っており、教える方として多角形のイメージでこういう付録の活用は検討されたのでしょうか。

○教科用図書選定審議会委員 数学小委員会委員の三浦でございます。私の方から説明させていただきます。小委員会では、特に付録の扱いということは調査研究項目には入っていなかったところですが、もし教科書にないということであれば、教科担任が工夫しながら行うところかなと思います。今ご指摘ありましたように、「東書」と「教出」は正多面体の展開図があってそれを組み立てて、正多面体の模型を通して学習するということで付録がございますが、「学図」には、錐体が柱体の体積の3分の1であることを理解するための教材が付録として掲載されています。その題材を扱うときにはそれぞれ工夫しながら授業を行っているということです。

○中野委員 担任が自分で作るでもいいですが、目の前に教材を置いて、そうだということを理解していく良さがあると思います。

○教科用図書選定審議会委員 学校には立体模型等もございますので、子ども1人1人が実際に組み立てて作るという良さもありますし、模型で一斉に学習した後、その探究の場面に時間を割いて、という時間の構成は様々だと思います。

○中野委員 分かりました。

○山根教育長 他、いかがでしょうか。

○阿部委員 課題探究的な学習の取り扱いのところで、自ら疑問や課題を見だし、主体的に解決することが可能な内容かどうかというのが、調査研究の具体的な内容として挙げられておりますが、各者の特長を改めて教えていただければと思います。

○教科用図書選定審議会委員 課題探究的な場面においては、まず「東書」では、考えてみよう、調べてみようの後に、①②と補助発問に沿って考えを深めていく構成になっています。

続いて「学図」の場合は、最初に子どもたちが疑問を抱く場面を丁寧に扱っていて、教科書にある吹き出しや右側の見方・考え方にある、どこに着目して考えればいいのかというところで課題を見いだす段階から、丁寧に扱っているという特長があります。

「教出」はこれまで学んできたことのつながりをとても大切にしており、教科

書の随所にこれまでの既習事項を振り返る記述がありますので、それを子どもたちがヒントとしながら考えを深めていくという工夫がなされているという特長があります。

○阿部委員 「啓林館」のほうは何か特長はありますか。

○教科用図書選定審議会委員 「啓林館」はステップ1、2、3という構成で、数学の問題発見、問題解決の過程を意識した作りになっており、このとおりに進めることで、問題解決の過程に沿って子どもたちが取り組むことが可能な構成になっています。特に特長的なのは、「啓林館」はステップ3で、それまで学習したことを終えた後に話合いの場面を設けている特長があり、他者については話合い活動をしながら課題を解決していく教科書が多いのですが、解決が終わった後に振り返って話し合うところが他者と違うところかなと捉えているところ です。

○阿部委員 ありがとうございます。

○山根教育長 他、ございますでしょうか。

○山根教育長 今の阿部委員の質問にも関連するのですが、課題探究的な学習を実践していくうえで、現場では先生方、どういう工夫が必要になるのかということと、それに当たって教科書を具体的にどう活用していくのかということをお教えいただけますでしょうか。

○教科用図書選定審議会委員 数学においては、既習の内容を十分活用するということが必要になってきますので、それが十分でない生徒もいることから、それらの生徒に対して教員は個別にアドバイスをしていくという形で授業は進んでいきます。教科書にヒントや問いかけなどがあることで、子どもたちが自ら気づくということが大切で、教科書の役割は非常に大きいと考えているところです。

そういう意味では「東書」は、補助発問を重ねる形で構成されていますので、教師は教科書の問いかけをすることで、子どもたちが疑問や課題をもちながら進んでいくということになっている点、「学図」は発問の形の前の段階で、子どもたちがなぜだろうどうしてだろうと考える場面を特に大切に作っていること

から、自ら主体的に課題探究的な学習に取り組む工夫がありますので、子どもたちの学んでみたいという思いを引き出していくことは教師の役割として大切だと考えているところです。「教出」は既習事項が様々書かれているところがありますので、そういうところをヒントにして活用していく作りになっているので、教師としては授業の中でヒントを手がかりに解決を図っていくことを促していくという働きかけをしていくことになると思います。

○山根教育長　ありがとうございます。他、ございますでしょうか。

○中野委員　練習問題や巻末の問題、各者違いますが、その難易度や範囲には何か特長はあるのでしょうか。

○教科用図書選定審議会委員　各者発展的な内容を取り扱っているところで、そこに大きな違いはなかったと小委員会では見ていたのですが、発展的な内容を扱う量よりも質の部分に着目して調査研究をしてきました。

例えば、教科書で扱われている発展的な内容というのは、ただ難しいことだけではなくて、学んだことを生かしたり、数学の楽しさに触れたりすることがとても大切なことで、そういう学びとよくつながっているかという観点で見てきたところです。

既に前回小委員会の委員長からもありましたように、例えば「東書」は、身近な話題を題材として問題が設定されていて、それをもとに数学的に考察した後、さらに日常生活に生かしていくことを丁寧に構成している特色がありました。

他者においても、章末に「活用」と示されている問題がございまして、そこでは「東書」同様に日常とのつながりを意識した問題が多く掲載されています。

具体的には、「学図」1年生ですが、章の問題で基本問題、応用問題の後に、活用という問題がありまして、そちらで学んだことを日常の場面で活用していくということを意識した構成となっていて、授業の中で学んだことを日常生活に生かしていくという学びが可能となっています。

「教出」も同様に、章の問題、確かめてみようの後に、力を伸ばそうという問題があり、次に学びを活用しようということで、キャンプ場で水を汲むという場面を考えていくように、どの者も発展的な内容を取り扱っていて、学んだことを生かしていくことで、学ぶ意欲につながるものになっていると、小委員会で話題になりました。

○中野委員　ありがとうございます。

○山根教育長　他、ございますでしょうか。

○山根教育長　それではこれまでの審議を踏まえまして、札幌の中学生にとってどの教科書がより望ましいかということについて、各委員からの御意見を願いたいと思います。随時質問についても可能でございますので、よろしくお願いいたします。

○道尻委員　数学については、課題探究的な学習が充実させるような構成になっているかということは、各者工夫をされていて、特長的な部分があり、なかなか甲乙つけがたいかなと思っています。それぞれ評価できると思うのですが、私は「教出」が良いのではないかなと感じております。先ほどの御説明にもあったと思うのですが、既習事項を振り返りながら、考えていくことが可能という作りの部分に好感がもてると感じております。数学については、私自身もそうなのですが、なかなか興味をもちにくい生徒も相当数いらっしゃると思います。他の教科書でも取り上げられているのですが、そういった意味で「教出」の教科書は社会とのつながりあるいは他教科への活用が、少し特長があるかなと思います。数学を学ぶ意義や興味・関心につながることもあるのではないかと思います。市民意見でもそのような意見があり、私としては今のところ「教出」と思っています。以上です。

○中野委員　私は少数派ではないかと思いますが、「啓林館」と考えております。まずノートの取り方を見開き2ページについて学年ごとに載っているということと、分かりやすくというよりは、発展的というところにも力が入っていて、巻末の「力をつけよう」で、応用的な問題についても詳しく載っております。確かに数学が苦手な人に対し、つなげようという観点ももちろん大事だと思いますが、今は社会的には高い数学力が必要とされていて、文系でも数学を必ずやらなければいけませんので、発展的内容も含めたほうが良いと思ったところです。

分かりやすくという論点でいれば、「教出」を挙げたいと思います。私の意見としては、1に「啓林館」、次に「教出」です。

○山根教育長　ありがとうございます。

○佐藤委員 課題解決の学習過程の流れを丁寧に追えているという意味で、「東書」「教出」のいずれかなと思っておりました。

特に「東書」は、まず学習課題を示した後に補助発問が段階的に並んでいるところが、学習者にとっても使い勝手がいいと思っております。

「教出」は御指摘がありましたように、小学校とのつながりということを非常に大事にしている教科書だと思います。章の前に必ず学習する前にというものが掲載されており、既習事項というものを確認する形で大変丁寧に作られていると感じます。

また、課題解決型の学習を促すときに、クエスチョンから始まる「はてな、なるほど、だったら」という問いのつながりは、数学や理科で大事にされる学習過程なのかなと思います。これが連続的に示されているという点においても、「教出」は非常に丁寧と感じます。中野委員のおっしゃるようにレベルの高い人に合わせるのか、それとも一般的な層に合わせるのかということですが、私としては一般的な層に合わせるのであれば、第1が「教出」で、2番目は「東書」というのが、私の考えです。

○阿部委員 私は「教出」がいいと思っています。まず課題探究的な学習の取扱いでは、学びのプロセスというところで、問題を自らが発見するというところと、主体的に解決することが可能かどうかというところで、そのプロセスがまず問題を見いだして、どこに問題があるかを掴んで、見通しを立てて解決するというストーリーがしっかりと組まれているというところが長けていると感じました。

また、定期的に数学の広場としてコラムを掲載しているので、これも非常に読みやすく、分かりやすく、数学が苦手なお子さんでも少し一息つけるような、そんなシーンになっていると感じました。

また、Let's Tryという部分では、日常生活で起こりうるような場面を想像しながら問題を見いだして解決するような作り込みになっているところから、「教出」がいいと思います。

○石井委員 私は「教出」と「東書」で非常に悩みましたが、課題探究という点で、学習過程がわかりやすいのは、「教出」だと思います。現在の小学校の教科書もそうですが、学習過程が「はてな、なるほど、だったら」という流れが非常にわかりやすいということと、市民意見でもありましたが、振り返りをしやすいということで、小学校や前年度学んだことを巻末の方にある学びのマップを活用しながら、自主的に復習しながら学んでいけるという点で「教出」と思い

ました。

「東書」はMath connectというテーマがあって、日常と数学とのつながりを意識できる点はよかったのですが、いろいろな面を考慮して「教出」と思っております。

○山根教育長 ありがとうございます。「教出」の声も多かったのですが、中野委員からは「啓林館」の発展的内容に詳しいという特長がいいという御意見もありました。

数学において発展的な内容について、授業でどのような取り扱いをされているのか、また発展的な内容に興味・関心のある生徒への対応について教えていただけますでしょうか。

○教科用図書選定審議会委員 発展的な内容は巻末に掲載されているもの、途中に掲載されているものなど、様々ありますが、授業では学習したことと関連して扱うことが多いと思います。例えば、各章で学んだ後に、扱うこともありますので、場合によっては時間の関係からその部分が十分に扱えないこともありますので、子どもたちが興味・関心をもって自ら取り組んでみたいと思えるような紙面になっていることで、家庭での学びを深めることに活用できることもあると思います。

○山根教育長 ありがとうございます。中野委員、いかがでしょうか。

○中野委員 私は少数派であることを自覚しつつ、「啓林館」と申し上げましたが、既習事項との関連や分かりやすさを重視するのであれば、先ほど申し上げた「教出」と思っております。実際の授業では、より発展的な内容のところまで手が回らず、標準的なところから分かりやすくという点に主眼を置いていると推測しておりますので、指導しやすい「教出」がいいと思います。

○山根教育長 ありがとうございます。他、御意見等ございますでしょうか。よろしいでしょうか。

○山根教育長 それでは総合的に判断しますと数学につきましては「教出」がより望ましいのではないかと考えられますが、いかがでしょうか。

(「はい」と発言する者あり)

○山根教育長 それでは数学につきましては、「教出」を選定することといたします。

○山根教育長 続きまして理科について審議を行います。

前回の審議におきまして、「東書」「啓林館」の2者を選定の候補といたしました。この2者から1者を選定いたします。

はじめに、前回の審議における小委員会委員長の報告や質疑応答の内容を私なりに整理してみますと、以下におきましては、学習のまとめの設定の仕方や協働的な学びということについて、各委員から質問やご意見がございました。小委員会委員長からは、課題探究的な学習の取り扱いにおける導入や振り返りの設定の視点において、各教科書の特長が見られるということでありました。それでは、前回の審議を踏まえましてさらに各委員からご質問がございましたらお願いいたします。

○阿部委員 課題探究的な学習の取り扱いで仮説を立てて検証するという具体的な内容の記載があるのですが、大人でも仮説を立てることは難しいので、興味をもってもらい、その仮説を立てるまでのサポートが非常に私は重要だなと思うのですが、2つの教科書についてそれぞれ特長がありましたら教えていただきたいと思います。

○教科用図書選定審議会委員 ありがとうございます。まさにその仮説を立てる前、課題を設定する前の疑問を自ら持ち、そして自ら課題を設定するというプロセスは重要になってくるかなと思います。

前回も紹介させていただいた内容ですが、例えば「東書」2年生の化学変化の中で、炭酸水素ナトリウムの熱分解のものですが、イラストを使って疑問を生み出すところがあります。なぜふっくらしているのだろう、その原因は何か、ということをイラストでわかりやすく説明をされていて、その原因が炭酸水素ナトリウムにあるということを紹介するようなアプローチの仕方です。

一方、「啓林館」は、どら焼きを例に取っておりますが、実際にどら焼きやカルメ焼き、それぞれふっくらしている共通点はなんだろうかという見た目や、下段にそれぞれの材料を載せて、共通点はなにかということを手で考え、共通するのは重曹、炭酸水素ナトリウムにあるのではないかと手を見いだして、課題設定をして、探究をしていくという流れになっております。

○山根教育長 他、いかがでしょうか。

○道尻委員 理科についても、興味のある方もいれば、中々興味をもてない方もいると思うのですが、日常生活との関わり方あるいは学んだことをどうやって日々生かしていくのかという点について、特長があれば教えていただきたいと思います。

○教科用図書選定審議会委員 ありがとうございます。答申の1、調査研究項目1の(2)に関わる内容かと思いますが、理科を学んだことの意義や有用性を実感するということはものすごく重要で、令和4年の全国学力学習状況調査の結果も、そこに課題があると捉えております。

まず、「東書」はほとんどの節の終わりに、活用、学びを生かしてみようとなります。これは、先ほど紹介した2年生の化学変化のところですが、熱分解を学んだ後に、学びを生かしてみようという形で、ここでは水を冷蔵庫に入れて氷にする変化、これは化学変化と言えるかどうかということを、理由を合わせて説明してみようというような問いが示されています。このように、学んだ後に活用という問いが示されているのが「東書」の特長になります。

「啓林館」は、今使っている教科書から今回新たに追加された内容になりますが、アクションというものが示されています。同じように課題探究の後に示されているパターンもありますが、実はこのアクションが随所に掲載されていると、全て学んだ後ではなく、探究の途中にもアクションが示されるような構成になっています。そのため、学びの振り返りとして活用することもできれば、事業の導入として使うなど、様々な活用ができると思います。

○山根教育長 ありがとうございます。他、よろしいでしょうか。

○山根教育長 それでは、どの教科書がより望ましいかということも含めましてご意見をお願いしたいと思います。

○中野委員 私は、現在使っている「啓林館」を継続すべきではないかと思いました。「啓林館」は説明が細かく書かれていて、3年生の81ページ、地球の自転の周期で、1回自転するのに24時間と思いがちなところ、公転した分だけ短くなる、という説明を書いているのが「啓林館」で、細かく書いている点や日常何

気なく考えたことを説明できている点が優れているのではないかと思います。また、82 ページですが、月の形と上に上げたボールの陰影がタイアップできているというところで、なぜかというところを身近な物を使って類推できるというところなど、細かいところへの配慮が高く評価できると思います。

ただ、「東書」も優れているところがあって、歴史にアクセスというところが、私は気に入っておりまして、科学的探究ですが、歴史的にどのような論点で説明できるのかということを非常に興味深く紹介しているコーナーを評価しており、どちらも優れていると思いますが、今回は僅差で「啓林館」というのが私の結論でございます。

○石井委員 私も「啓林館」が良いと考えております。両者どちらも非常に良くて悩みましたが、どちらも課題探究的な学習の取り扱いという点ではそんなに差はないかなと思っております。ただ、写真の資料や、先ほどのご説明にあったアクションもですが、「啓林館」の発問が非常に良いと思いました。炭酸水素ナトリウムを加熱したときの化学変化の部分ですが、「啓林館」の2年生の139 ページ、各章の始まりの部分の「学ぶ前にトライ」という発問が子どもたちの身近に感じ、日常と密接につながっている化学変化を意識できる点で好感をもちました。例えば、入浴剤の泡で化学変化を子どもたちに意識させるというところですが、このような発問から、疑問を子どもたちにもたせるというところで「啓林館」がいいかなと思いました。

また、写真が非常に良いと思っています。例えば3年生の82 ページ、マンションの壁からボールと影があるような写真など、子どもたちが科学というものを意識できるのではないかと思います。

あとは、3年生の46、47 ページで、プラネタリウムの解説者に挑戦という発問が、プラネタリウムがある札幌市としては活用ができるのではないかと思います。以上です。

○道尻委員 私も「啓林館」が良いのではないかと思います。課題探究的な学習の充実という面では、どちらも遜色なく作られていると思いますが、理科を学ぶ意義や社会の中における有用性といった視点で、「東書」は学習の終わりに単元のページがあるのに対して、「啓林館」は各所においてもアクションというものが掲載をされており、授業の中で導入や単元を学ぶ中で、そのような観点を取り込み、効果的な授業を行うことができる面があるのではないかと感じました。

また、「啓林館」は札幌市に関わる内容が充実していることから、札幌市の子

どもたちが学ぶ教科書として、相対的に「啓林館」が一番適切ではないかと思えます。

○阿部委員

私も皆さんと同じく「啓林館」と思っています。皆さんからの意見とはちょっと違う角度でお話させていただくと、考えてみようと思えますが、その中でグループ活動を推奨しております。みんなで話し合って答えに辿り着きましょうというふうになっていまして、話し合いの仕方が、1年生だと261ページに記載されており、これが非常に共感できる点です。まず自分の意見を言って、その後に相手の考えを聞いて、最後にこれってどうなんだろう、とグループで話し合いがあり、さらに広げるためにブレストのやり方やジグソー法といういろんな話し合いの仕方にアプローチできるような説明があります。理科ではない他の教科でも使えるところが、「啓林館」の丁寧な巻末の資料の作り方という意味でも、一歩先に進んでいращやるのかなという印象を受けました。以上です。

○佐藤委員 両者、読めば読むほど、それぞれの良さというものに気づかされて、本当に甲乙つけがたいですが、私も本当に僅差で「啓林館」とさせていただきたいと思えます。「東書」で感動したのは、2年生の10、11ページの元素記号表は各元素が一体どのような物質が入っているのかということが示されていて、惹かれましたが、「啓林館」はこれまでご指摘ありましたように発問がいいということ、それから、探究実習・探究実験やみんなで探究クラブが非常に興味深いと思えます。そのような細かい問いかけや学習者の元々もっている知識をどういうふうに活性化していったらいいのかという観点から作られている印象を受けるということで、私も「啓林館」を推させていただきたいと思えます。

○山根教育長 ありがとうございます。それでは理科につきましては、「啓林館」が札幌市の子どもたちにとってより望ましいのではないかと思われます。いかがでしょうか。

(「はい」と発言する者あり)

○山根教育長 ありがとうございます。それでは理科については「啓林館」を選定することといたします。次は外国語、英語について審議を行います。

英語につきましては前回の審議において「東書」「開隆堂」の2者を選定の候補といたしました。この2者から1者を選定いたします。

はじめに、前回の審議におけます小委員会委員長報告質疑応答の内容を私なりに整理してみますと、英語につきましては、話すことにおける帯教材の取扱い、また社会的な話題の取扱い、小学校の学習と繋がり、について各委員から意見がありました。小委員会委員長からは、課題探究的な学習における言語活動の取扱いや、札幌市の課題である「話すこと」、やり取りの学習の充実を図る視点において、各教科書の特長や違いが見られるとのことでありました。まず前回の審議を踏まえましてさらにご質問がございましたら、よろしくお願いいたします。

○阿部委員 主体的に考え行動する力を育む教育活動の推進の(2)で、「話すこと・」やり取りの領域における学習の取扱いというところで、事実や自分の考えというところと、気持ちを整理するというところがあると思うのですが、気持ちを整理するって大人でも難しい部分があると思います。国語では根拠をどう示すかという根拠だったのですが、外国では気持ちを整理するっていうところが特長なのかなと思います。そのようなあたりで2者の教科書会社にどんな特長があるのか教えていただければと思います。

○英語小委員会委員長 ありがとうございます。2者とも思考ツールやデジタル教材等を使って気持ちを整理するような箇所があったので、ご質問があった点に関しては大きな違いがなかったと、小委員会の方ではご意見として出ていたところです。

○佐藤委員 前回伺ってなかったと思うんですが、この2者において1年間通しての教材の容量について差はありますでしょうか。同じでしょうか。

○英語小委員会委員長 ありがとうございます。教科書を開いてみていただいて、ぱっと出てくる文字の量は、小委員会では「東書」の方が多いかなというご意見は上がっておりました。また、現在、「東書」を使用しておりますが、市民意見の方にも、やや難しいというご意見もありまして、ただ教科書はあくまで教科書でございますので、現状先生方は、どんな力を身につけさせたいかというゴールに向かって、軽重をつけて教えているところです。開いたところの紙面上の情報量、文字の量というところには少し差があるかなとは思っておりますが、そこは先生方の工夫というところもあると思います。

○阿部委員 今の佐藤委員の意見に対するご回答を踏まえて、確かに「東書」の

方は情報量が多く、コンテンツが多いので、多様な学びが深まるのでは、という印象がありましたが、個人的には、例えば1年生のときに初めて会うクラスメイトに自己紹介をスタートするようなシーンがあり、その次にアルファベットの名前と音を確認しようというセクションがいきなり入ってきたという印象をもちました。こういうストーリーになっているものなのか、その辺を教えていただきたいと思います。

○英語小委員会委員長　ありがとうございます。小学校で学習した内容を復習しながら中学校1年生の大体1学期ぐらいまではそのような構成に各者ともなっていると思います。自己紹介にしても、アルファベットの取扱いや音についても、復習しながらプラスアルファをして、学習内容の取扱いになったのかと思います。

○阿部委員　ということは、いきなり出てきてるというよりも、小学校の復習が要所要所に入り込んでいるので、特にそれについて違和感なく進めていけるということなのでしょうか。

○英語小委員会委員長　はい、おっしゃる通りでございます。

○阿部委員　はい、ありがとうございます。

それともう1点、両者を比較したときに、「開隆堂」は話す側が顔のアイコンになっていて、「東書」はアイコンではなくて人の名前になっておりますが、この辺は何か小委員会の中で話題に上がったことはありますか。

○英語小委員会委員長　ありがとうございます。特にここは大きな話題にはならなかったかなというのが率直なところでございますが、先ほどお話した件とも重なりますが、自己紹介は小学校でも繰り返し行っているものなので少し復習、それから新しく出会ったお友達も中学校にいるということで、一文程度追加して自己紹介をするという学習の取扱いになっているかと思います。

○阿部委員　自己紹介だけでなく、要所要所の対話のシーンで、「開隆堂」は顔のアイコンが出てきております。その辺は自己紹介に限らず、アイコンになっていても名前になっていても、そんなに大きな違いはないということでしょうか。

○英語小委員会委員長 この部分に関しては、小委員会では意見はありませんでした。

○阿部委員 わかりました。

○石井委員 質問させていただきます。小学校のときはどちらかというと英語は文法というよりは「話すこと」や「聞くこと」に重点を置いていて、中学校に上がって文法を意識するようになると思いますが、両者を比較したときに、「開隆堂」の方が少し細やかな感じがしました。例えば「東書」だと1年生の28、29ページでbe動詞と一般動詞を使うのですが、「開隆堂」はbe動詞と一般動詞を順序を追って扱っており、そういった文法の手扱いについては小委員会で何か話し合われたでしょうか。

○英語小委員会委員長 ありがとうございます。各者特長があるのご意見が出ており、今スクリーンに出ているように、グラマー フォー コミュニケーションのような文法のまとめのページは各者取り扱っておりますが、今回大きな特長ではないかとしてご意見が挙がったのは、「開隆堂」の扉の次のページになります。やり取りで新しい言語材料を捉えていくというところが大きな特長です。質問とややずれるかもしれませんが、このやり取りの例を視覚的に、それから音でも確認をした後に、スピーク アンド ライトで話す練習や、このやり取りの下にスモールトークがございますが、やり取りのイラストで、言語材料に触れ、視覚的にも理解した上で次の活動に進めるのが、「開隆堂」の大きな特長だというご意見が多く出ておりました。

○山根教育長 ありがとうございます。他、ございますでしょうか。

○山根教育長 言語活動に取り組む機会を質・量ともに充実させていくということが大きな課題だと思いますが、そのような包括的な観点で両者の特長、違い的なものがあれば、改めてお願いいたします。

○英語小委員会委員長 前回の教育委員会会議でも話題にさせていただいておりますが、札幌市においては、言語活動、特に「話すこと [やり取り]」が課題ということで、こちらを念頭に置いて調査研究を進めてまいりました。2点お話

させていただきますが、1点目は日常的な話題についてやり取りをする練習についてでございます。日常的な話題についてやり取りの練習を行う、いわゆるスモールトークというコーナーが「東書」にも、「開隆堂」にも記載はございます。例えば、「東書」でしたら、巻末のページ、帯活動のところに、スモールトーク即興で伝え合おうというページがございまして、こちらをめくりますと、各単元の学習に関連して、スモールトークでやり取りの練習、日常的なやり取りの練習を取り組むことができるページがまとめて掲載されております。一方、「開隆堂」では、巻末にまとめてというわけではなく、各ページの一番下の部分にスモールトークという日常的なやり取りを練習するコーナーが設けられており、さらに巻末の一番後ろになります。スモールトークを練習する上での表現集があります。同じく巻末の資料でスモールトークの流れというものもございまして、苦手なお子さんや慣れていない段階でこのような流れや表現集を見ながら日常的なやり取りを練習することがというのが「開隆堂」の大きな特長だと捉えております。

また、社会的な話題についてのやり取りについても、大きな課題がございしますが、「東書」では、例えば3年生の52ページになりますが、この単元全体が社会的な話題についての学習の単元になっております。本文、それからこの下にあるアクティビティにも社会的な話題について段階的にやり取りの練習をすることができるコーナーになっておりまして、「東書」の特長と捉えております。一方で「開隆堂」はスモールトークで日常的な話題についてやり取りを何度も練習を重ねた上で、3年生89ページになりますが、アワプロジェクトという単元がございまして。複数単元のまとめの活動において社会的な話題について、やり取りの練習を行うことができるという構成が特長になっております。以上です。

○山根教育長 スモールトークの構成は「東書」と「開隆堂」で違いがはっきり分かれるところだと思いますが、生徒の学びや先生の使い勝手という観点で、小委員会では何か議論された点はあるのでしょうか。

○英語小委員会委員長 ありがとうございます。小学校でもかなりスモールトークを練習した上で、中学校に上がってきているというのが事実ですが、内容がかなり難しくなるというのが中学校の特長でして、一回練習したぐらいでは話せるようにはなかなかならないのが現状です。前回できなかったことをもう1回戻ってやり取りの練習をするということが大事だと、小委員会では意見が出ておりました。そういった意味では、「東書」のスモールトークについては、先

ほどもお話をさせていただいた通り、巻末に付いているという意味では、何度も戻って繰り返し練習しやすいかもしれないという意見が出ていたところでございました。以上です。

○山根教育長　ありがとうございます。他、ございますでしょうか。

○山根教育長　では、札幌市の中学生にとってどの教科書がより望ましいかということについてご意見をお願いしたいと思います。質問も適宜可能ですので、よろしくお願いいたします。

○中野委員　現在使用している「東書」は、多方面に色々な教材があり、これから英語力が必要なところで、多量が多くても札幌市の子どもにとって必要だろうということで前回選んだと思います。授業で全部扱うには盛沢山すぎるといときには削ればいいのかと思っております、ないものを足すことは非常に難しいですが、あるものを削る分には運用していけるのかなと思います。「東書」は1年生で国語の教科書でも掲載されているごんぎつねを英語で学ぶというところで高校との繋がりもあり、2年生では札幌ラーメンのところが紹介されているのが身近と感じています。2年生の84ページ「A glass of milk」はアメリカの有名な実話だと思いますが、これは英語でセンテンスを勉強するときには、大人の復習バージョンでも必ず出てくるもので、個人的には非常に好きなのですが、これが取り上げられているということもありまして、また、3年生のときに、日本のカルチャーの部分が充実しており、多少ヘビーではありますが、「東書」をそのまま継続するした方がいいのではないかと考えています。

○佐藤委員　今まさに、中野委員おっしゃったところが私も気になっていて、例えば、1年間で扱うのに「東書」は分量がやや多く、軽重をつけて使っているということでしたが、具体的にはどのように軽重をつけているのか教えていただければと思います。

○英語小委員会委員長　ありがとうございます。この部分について、各先生で使い方はそれぞれというのがお答えになるかと思うのですが、札幌市の課題である「話すこと[やり取り]」の力をつけた上で卒業させたいと思うのであれば、先ほどご紹介させていただいたスモールトークを重点的に行ったり、違うアクティビティのコーナーを少し軽く扱ったりというふうに、先生方によって使い

方も違うかと思います。

○佐藤委員 ありがとうございます。現在、4年経って、札幌市の先生方は「東書」を使いこなされているというふうに考えてよろしいでしょうか。

○英語小委員会委員長 はい。よく研究されて使用していただいていると思いますし、先生方は工夫して進めてくださっているのではないかと考えております。

○佐藤委員 はい、わかりました。ありがとうございます。そのことを踏まえて、私も「東書」を推させていただきます。もちろん他の教科と同じように得意不得意ってというのが生徒たちの中にあると思うんですが、得意な人から得意じゃない人まで、大きなレンジを担保するのは「東書」ではないかと思います。今伺ったように、4年間で使いこなされているということをお聞きしましたので、「東書」で札幌の子どもたちに勉強していただきたいと私は思います。

○石井委員 私も「東書」が良いと思います。両者を比較したときに、もしかすると「開隆堂」の方が文法のところで丁寧に進んでいけるかなと思いましたが、やはり「東書」も難易度は高いかもしれないんですけども、「話すこと〔やり取り〕」の数や、やり取り以外にも発表する課題が多いっていうのも「東書」の特長かなと思います。みんなの前で、英語で発表する機会を増やしていただきたいなと思いました。社会的な話題についても「東書」の方が、ボリュームがある感じがしたので、「東書」でお願いしたいと思います。

○阿部委員 私は2者で非常に迷いながら、最終的には「開隆堂」の方がよろしいのではないかという意見を持っております。その理由といたしましては、カリキュラムが、プログラムという構成になっていて、先ほどご紹介いただきましたシーンというコーナーからスタートして、登場人物が2人いて、2人の対話からこれからのセクションがどういう方向に向かっていくのかっていうのが、視覚的に見通しが持てるような作り込みになっております。その後に、これは私の見立てですが、基本的なことを振り返るシーンがあり、その後に応用でパート1、2と進んで、そのセクションによっては3、4と続き、最後に先ほどご紹介があったアワープロジェクトというシーンで発表というセクションの始めと終わっているというのがすごくわかりやすい構成になっております。「東書」は巻末の方に、

即興でスモールトークがあり、その辺の違いはあると思うのですが、プログラム構成の作り方については、私は「開隆堂」のほうが子どもたちにとってはより分かりやすいのかなという意見があります。

ただ、「東書」だから駄目とかそういうことではなく、情報量や先生たちもそれぞれに工夫してやってらっしゃるということでしたので、絶対に「開隆堂」じゃなきゃ駄目だという強い意見よりも、どちらになってもいいなと思う中で、特にこのシーンから始まるアワープロジェクトで終わるストーリー性を評価し、「開隆堂」の方が良いのではないかという意見です。

○道尻委員 私も2者とも良い教科書だなと思っておりまして、甲乙つけがたい印象です。どちらかと言えば、阿部委員と同じように「開隆堂」のほうが自分の好みかなと思いますが、自分のレベルに応じた見やすさ、わかりやすさを元に判断をしているだけですので、多数の皆さんが推す方を選択していただきたいと思います。

○山根教育長 ありがとうございます。阿部委員の方からも、「開隆堂」はシーンからアワープロジェクトに流れる学習の流れが非常にわかりやすく、特長的ではないかという話がありました。課題探究的なプロセスというかその辺の流れについては「東書」の方はどういう特長があるのでしょうか。

○英語小委員会委員長 「東書」についても、扉のところに目標が書いてあって、見通しを持って学習を進めることができるというのは共通でございますし、単元の最後には、ユニットアクティビティがあり、一番下のチェックという欄で振り返りを行うというような流れになっております。「東書」も見通しを持って、そして単元末には振り返るという流れが共通してあると思っております。

○山根教育長 言語活動の部分については、「東書」も「開隆堂」も良いところ、特長もあるということですが、学びの流れの部分についてはそれぞれ異なる部分が若干あり、どちらが甲乙ということではなくて、異なるような流れになっているということでありました。その辺も含めまして、皆様ご意見ございますでしょうか。

○道尻委員 「東書」にまとめていただいてよろしいのではないのでしょうか。

○山根教育長 よろしいでしょうか。

(「はい」と発言する者あり)

○山根教育長 もう1点だけ。そういった意味では、「開隆堂」は割と教科書の流れに沿った先生の授業作りになると、「東書」は内容が充実しているということもあって先生が色々取捨選択しながら授業に軽重をつけていくということが主に両者の特長という理解でよろしいでしょうか。

○英語小委員会委員 おっしゃる通りでございます。

○山根教育長 ということで、「東書」につきましては皆さんよくできている中身ではないかというお話がありました。一方、「開隆堂」も優れた点があるというご意見をいただいたところでありますが、色々な議論を総合すると、今回については「東書」がよろしいのかなと思いますが、皆さんいかがでございましょうか。

○佐藤委員 阿部委員のおっしゃることも最もだと、そういう観点から見ると、やはり「開隆堂」の方が流れは見やすいような気がします。ただ、前回「東書」の情報量の多さというところから我々が選択をして、4年間先生方が頑張って「東書」を使いこなされてきたという期間があると思います。なのでもう1期「東書」で続けてみて、その後また判断するっていうのも良いのではと思うのですがいかがでしょうか。

○阿部委員 今の佐藤委員の意見に賛成でございます。

○山根教育長 他の委員の皆さん、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

(「はい」と発言する者あり)

○山根教育長 それでは英語については「東書」を選定することということでよろしいでしょうか。

(「はい」と発言する者あり)

○山根教育長 それでは、次は音楽一般と器楽合奏について審議を行いたいと思います。はじめに音楽一般です。

音楽一般につきましては、前回の審議におきまして、「教出」「教芸」の2者を

選定の候補といたしましたので、この2者から1者を選定いたします。まず初めに、前回の審議における小委員会委員長の報告や皆様の質疑応答の内容を私なりに整理していきますと、音楽一般においては鑑賞教材における資料の取り扱いや指導、音楽におけるコンピュータの活用ということについて各委員からご質問意見がございました。小委員会委員長からは、課題探究的な学習における、音楽から聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考えること、の視点において各教科書の特長や違いが見られるとのことでありました。前回のこういった審議を踏まえまして、さらに各委員からご質問がございましたらお願いいたします。

○山根教育長 一点、私から確認なのですが、音楽一般と器楽の出版社は異なっても問題ないということでしょうか。

○教科用図書選定審議会委員 絶対に一致していなければいけないということではございませんが、系統性のある指導を行う際には、揃っているのに越したことはないのかなと思っています。

○道尻委員 前回の繰り返しのようになる部分もあって恐縮なのですが、音楽の鑑賞における課題探究的な学びについてのそれぞれの特長を教えてくださいますでしょうか。

○教科用図書選定審議会委員 鑑賞においては、交響曲第5番を例示してお話させていただきたいと思います。「教出」は2・3上の43ページ、「教芸」は2・3上の42ページから学びのコンパスがございます。両者ともに、課題探究的な学習を進めるためのコーナーとして、「教出」はアクティブ、「教芸」は学びのコンパスと掲載されております。音楽の鑑賞における課題探究的な学びの充実というところでは、音楽から聴き取ったことと感じ取ったこととを関わる過程が確保されているかどうかというところが、非常に大事になってきます。そういった意味では、「教出」のアクティブは自分なりに気づいたことをメモしていくような書きぶりがワークシートとして掲載されています。それに対して「教芸」は下の聴き取ったことと感じとったことが双方向の矢印で示されており、その関わり、関係性について必ず着目するというような流れが確保されていると思います。そして、その内容を根拠としながら聴き深めていくことができるのかというところになっておりまして、「教芸」の場合はその後の吹き出し等の中身

を参考にしながら、新たな視点を持っていくことが可能であったり、グループで意見を共有することでさらに聴き深めるというようなことができる構成となっております。

○阿部委員 北海道と関わりのある内容を取り上げている資料というところで、「教出」は Kitara や札幌時計台の写真の掲載があるということなのですが、それに対して「教芸」の方では何かそういった特長のあるところっていうのはありますか。

○教科用図書選定審議会委員 ずばり札幌という資料は見つけることはできませんでした。

○阿部委員 その辺の違いっていうのは、実際に授業を進める上で障害になることはあるのでしょうか。

○教科用図書選定審議会委員 小学校6年生のときに Kitara ファーストコンサートを経験している子どもたちですので、あの Kitara の写真だねっていうような形での触れ方はできるかと思いますが、授業の中身としては小フーガト短調の鑑賞の授業になるので、授業の狙いとしてはパイプオルガンの音色とか、構造がわかればいいので、必ずしも札幌市にあるパイプオルガンでなければならぬということではないと思っております。

○阿部委員 先ほど「教芸」の方は学びのコンパスで、「教出」の方はアクティブというご説明があって、どちらかという「教芸」はグループ活動にアプローチする作りになっているっていうように思いました。「教出」の方はグループというよりも、どちらかという個人活動というような違いがあるということなのではないでしょうか。

○教科用図書選定審議会委員 「教出」にも、アイコンが示されておりまして、例えば2・3上の浜辺の歌のアクティブに掲載されている、話し合おうというところでは、音や言葉によるコミュニケーションというような意味合いでの協働のところが掲載されておりますが、「教芸」はアクティブとして掲載されている題材の数にだいぶ違いがありまして、学びのコンパスの中では必ずグループ交流を挟んでいくという学習の流れが取られているかと思っております。

○阿部委員 そう考えると、音楽というものに対して、みんなで学び合うこと、グループ活動の重要性はどの辺の位置づけになるのでしょうか。

○教科用図書選定審議会委員 例えばアンサンブルや合唱、二重唱をするとかという、そもそもの形態としての協働というものはもちろんありますが、それ以外に、私はこの音楽を聴いて、音色がこうだったから、こういうふう感じた、というようなことを他の子が聴いたときに、私は音色には注目しなかったけれど、確かにそうやって聴いてみたらそんな気もするというような、新たな気づきがあります。音楽を聞いて感じたことや、見つけたこと等を共有し、共感することが求められているところです。

○阿部委員 わかりました。

○山根教育長 先ほど鑑賞における特長を教えてくださいましたが、表現領域における課題探究の学びという観点での特長を教えてくださいませんか。

○教科用図書選定審議会委員 表現領域におきましても、先ほど鑑賞の際に申し上げましたように、音楽から聴き取ったことや感じ取ったことを関わるせるというところが不可欠になっております。その内容を根拠としながら、自分はどうのように表現したいのかという思いを持って、表現を高めることができているかというような学びの進め方が求められるということです。もし、例としてお示しするのであれば、先ほど開いていただきましたが、2・3上の浜辺の歌では、「教出」は浜辺の歌と早春賦という楽曲を比較することで、その特長を洗い出していくという手法がとられておりますが、「教芸」は音楽の特長等を上の段で聴き取ったこと、下の段で感じ取ったことというふうにして、それを歌詞とはどのように結びついているのだろうかということを明らかにした上で、それを生かしてどのように歌っていこうかと考えるプロセスが取られていると思います。

○山根教育長 ありがとうございます。他、ご質問ございますでしょうか。

○山根教育長 それではこれまでの審議を踏まえまして、札幌の中学生にとってどの教科書がより望ましいかということについて、委員からのご意見を頂戴

したいと思います。

○佐藤委員 本当に甲乙つけがたいのですが、私はこれまで「教出」は Kitara や札幌時計台という札幌ゆかりのものが掲載されているということで選ばれてきたと思うのですが、今回は「教芸」を推したいなと思います。それは学びのコンパス等に出てくる登場人物のポップってというのが、「教出」に比べると圧倒的に多くて、ポップの絵を子どもたちも恐らく読んでいくことによって、鑑賞や自分の演奏、発声・歌というものを深めていくこともできるんじゃないかと考えます。この学びのコンパスにあるポップの豊富さというものに注目して、私は今回「教芸」を推したいと思います。

○山根教育長 他、いかがでしょうか。

○石井委員 私も非常に両者、悩みました。「教芸」は先ほど佐藤委員からもおっしゃっていた学びのコンパスが非常に良いなと思ったのですが、学びのコンパスの内容が、ある程度音楽の知識がないと理解するのが難しいのではないかなというふうに思っております。例えば、2・3上のオペラと歌舞伎の良さについて考えようっていう部分は、ある程度オペラと歌舞伎についての知識がないと、なかなか大人でも相違点や共通点を短い時間で判断するのは難しいのではないかなと思いました。その点「教出」は北海道と関わりのある内容が比べると多いですし、紙面の使い方が非常に上手いなというふうに思いました。両者とも結構共通の題材が多いのですが、例えば1年生ですと魔王を比較すると、「教出」は非常に子どもが興味を持ちやすいなというふうに思いました。「教出」の48ページ、絵の上に詩が書いてあって、魔王がどういった曲でどのような話なのかわからなくても何となくイメージすることができます。また、2、3年生の教科書にあるアイーダも両者にありますが、「教出」はオペラという総合芸術の壮大な舞台というのを写真で大きく載せていて、どういったものなのかというのが非常に想像しやすいと思いました。教科書の紙面の使い方や北海道の題材が多いという点で、結構音楽って苦手と得意がはっきり分かれる教科だと思いますが、苦手な子でも興味を持つことができる紙面作りをしてるというのが「教出」なのかなと思いました。「教芸」も学びのコンパスが非常にいいのですが、多くの子どもたちが使う教科書としては、私は「教出」が良いのではないかなというふうに思っております。

○中野委員 私は「教芸」だと思ったところです。例えば北海道にゆかりのソーラン節のところでは、「教出」は1ページの扱いですが、「教芸」は見開き2ページに渡って書いているので、詳しく出ているということと、オペラも北海道にはほとんど来ない、歌舞伎も滅多に来ないということで、そこは比較どうこうということは難しいのかなと思います。「教芸」については北海道にも来るだろうと思われるミュージカル、2・3上の52、53ページに代表的な演目について出ておりまして、この中のいくつかは札幌にも来たことがあることを紹介しているので、こちらのほうが生徒さんにとっては馴染み深いのかなというところでございます。音楽の教科書なので、写真はここでなくても地理など他のところで北海道の特長を扱うことができると思い、僅差でありますけども「教芸」とっております。「教出」がだめということではありませんので、多数意見で「教出」ということであれば、「教出」でも構いません。

○道尻委員 私もなかなか微妙な判断の2者だと思いますが、どちらかといえば「教出」かなと思っております。曲に込められた思いや意図を感じ取り考え、鑑賞や表現したりするということですが、なかなか生活と結びついた形で興味関心を持てていかないと、取り組めないお子さんもいるだろうと思います。そういったようなところで長けているのが「教出」かと思います。コンピュータのところも前回質問させていただきましたが、その辺も含めて「教出」の方がいいかなと思います。教科書の作り自体の問題だと思いますが、見やすさの点についても、市民意見で「教出」の方が評価されておりますので、どちらかといえば「教出」というふうに思っています。

○阿部委員 私は「教出」とっております。「教芸」との比較箇所としては、ご説明いただいたように、学びのコンパスかアクティブというところだと思いますが、石井委員の意見と全く同じで、学びのコンパスは難しいなという印象を持ってしまいました。確かに音楽を深めるという意味では面白いコーナーで、協働的作業ということを考えたら、私はこうだったけどそういう意見もあるんだってという意味合いでは非常に作り方としてはいいと思います。ただ、内容がちょっと濃いのかなという印象を受けてしまったのと、聴き取ったことと感じたことを2つ書けるようになっていっていると思いますが、聴き取ったこと、感じ取ったことを書き込むって、その点についてもちょっと難しいという印象を持ちました。学びのコンパス自体はすごく面白いコーナーだと思いますが、札幌の子どもたちにとっては、アクティブの方がわかりやく、まとめやすいし、協働作業になっ

たとしても話が進みやすいという印象を受けましたので、そこを比較すると、「教出」と思いました。以上です。

○山根教育長 はい、ありがとうございます。学びのコンパスの部分についてどうなのかという議論がありましたか。小委員会ではその辺、何か議論があったでしょうか。

○教科用図書選定審議会委員 小委員会の方は、吹き出しによって思考が促されていくということは話題になりました。聴き取ったことと感じとったことに関わっては、小学校 1 年生の段階からずっと積み上げてきているものでございますので、聴き取りの深さという点ではレベルが違うのかもしれませんが、中学校に入ったから初めて聴き取ったことと感じ取ったことに関わって考えるということにはなっていないと思っております。

○山根教育長 授業の中で使う上で難しいかなという意見はどうでしたか。

○教科用図書選定審議会委員 そういった意見はなく、逆にこれによって思考が促されるというようなご意見が多かったかと思います。

○山根教育長 皆さん「教芸」も「教出」も極めて僅差というご意見だと思うのですが、今の学びのコンパスの分も含めて、改めてご意見ございましたらお願いできますでしょうか。

○山根教育長 佐藤委員と中野委員がどちらも甲乙つけがたいけれど僅差で「教芸」、「教出」でもというご意見もいただいたところでありますが、皆さんのご意見を総合しますと、「教出」が望ましいのではないかという意見が多いのではないかと思います、いかがでしょうか。

○中野委員 強く推して、ここでひっくり返えそうというそういう意図ではありませんので、「教出」でも結構です。

○佐藤委員 芸術系は意見が分かれるところですので、やはりここは数で決めたらよろしいのではないのでしょうか。

○山根教育長 それでは、音楽一般につきましては「教出」が札幌の子どもたちにとってより望ましいのではないかとということでよろしいでしょうか。

(「はい」と発言する者あり)

○山根教育長 それでは音楽一般につきましては、「教出」を選定することいたします。次に器楽合奏です。前回の審議におきまして「教出」「教芸」これも2者を選定の候補といたしました。この2者から1者を選定いたします。まず初めに、前回の審議における小委員会委員長の報告、質疑応答の内容を整理してみますと、器楽合奏におきましては、音楽の教科書との繋がりについては、委員から質問がありました。小委員会委員長の報告におきましては、主に基礎的な技能に関する取り扱いの視点において、各教科書の特長や違いが見られるとのことでありました。前回の審議を踏まえまして、さらにご質問がございましたら、お願いいたします。

○中野委員 札幌市においては、器楽はどここの学校でも箏を使っているというところですが、「教出」8ページ、「教芸」10ページ、内容的には「教出」は技術的な細かな手の動きがどうかということで、多少両者の違い、そしてどちらが今やってる現実に近いのでしょうか。

○教科用図書選定審議会委員 「教出」の方は写真が大きく掲載されており、見やすいと小委員会でも話題になったところです。同じような写真がこのようにありますが、例えば爪の使い方で、こちらの写真とこちらの写真を比較すると、見やすさという意味では特長があるのかなというふうなところはございました。

ただ、「教芸」の方は練習のポイントというものが記載されておりまして、ここを確認しながら進めていくことも可能なのかなというところで話題になっていたところです。

○山根教育長 演奏における表現力を高める課題の設定の工夫とか、その辺に何か特長があるようであれば教えていただけますか。

○教科用書選定審議会委員 表現力そのものを高めるという意味では、例えば、同じ「さくら」の演奏が掲載されておりまして、「教出」は横の楽譜と縦譜が掲載されているというような掲載のされ方である一方で、「教芸」は先ほどの練習

のポイントに加えて、演奏のポイントというものが細かく示されておりますので、そういった順を追っていくことによってできることが増え、そしてさらにこうしていこうという思いを持つ促しになっているかと思います。

○山根教育長 他、ございますでしょうか。

○山根教育長 それではこれまでの審議を踏まえまして、札幌の中学生にとってどの教科書がより望ましいかということについて、ご意見をお願いいたします。

○佐藤委員 恐らく器楽のほうも内容的に大きな違いがなく僅差ということだと思っております。そこで冒頭に伺いましたように、可能であれば本体の音楽の教科書と一致している方が望ましいというご意見でしたので、器楽についても「教出」でよろしいのではないかというふうに思います。

○石井委員 私も器楽の方も「教出」がいいのではないかなと思っております。まず札幌市で箏を演奏する機会が多いということで、箏の記述が多いっていうのもポイントが高いなと思いました。私も趣味で弦楽器を弾くのですが、「教出」は、箏についての調弦法が「教芸」に比べて丁寧で、そういった点も良いと思いました。また、国際性を育む学習の取り扱いに係ると思うのですが、「教出」の30、31 ページ、56 ページには楽器の仲間たちとして、色々な国の似た楽器を掲載されておりますが、そういった楽器の特長を捉えて、共通点だったり楽器の背景にある文化だったり、伝統について調べる活動が非常に良いと思いました。以上です。

○阿部委員 私も「教出」と思っておりまして、札幌では箏を全校でやるということですが、特に前回ご説明いただいた爪のところが、「教出」のポイントで、5本指の全ての表現があるというところが「教芸」とは違う点と説明もありました。丁寧な説明、写真の使い方がとてもわかりやすいという印象を受けましたので、そういった意味からも「教出」と思います。

○道尻委員 1つ質問させていただきたいと思いますが、「教芸」の演奏のポイントという記載は小委員会の方では、どういう評価でしたでしょうか。素人的にはこういう記載があったほうが、子どもたち学習にとってプラスになる、あるいは

は分かりやすく表現が深まると思うのですが、必ずしもこれが必要なものではないということなのか、その辺の評価や授業への影響についても教えていただければと思います。

○教科用図書選定審議会委員 あることによって、自分で読んで、そして確かめていくという過程を経ることはできるかと思いますが、なくても身に付けさせたい技能ではありますので、そういった際は教師側からの技能の修得に向けた指導という形で、教師の口頭による、もしくはデモンストレーション等による例示によって、気付きを促すといった授業の流れが考えられます。

○道尻委員 分かりました。今のようなことで、必ずしもここが不可欠で重きを置く部分ではないということでありましたら、他の皆さんと同様、私も「教出」の教科書を推したいと思います。

○中野委員 私も両者の違いを見つけるのが難しいと思っているところですが、ただ写真的には「教出」の方が自分練習すると、写真が具体的でやりやすいかなという印象は確かにございますので、他の委員が「教出」ということであれば私も「教出」がいいと思います。

○山根教育長 はい、ありがとうございます。器楽合奏につきましては「教出」が札幌市の子どもにとってより望ましいのではないかと考えられますが、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

(「はい」と発言する者あり)

○山根教育長 それでは器楽合奏については、「教出」を選定することといたします。

それではここで15分間休憩といたします。14時35分再開でお願いいたします。

(休憩)

○山根教育長 それでは審議を再開いたします。次は美術について審議を行います。前回の審議におきまして、「開隆堂」「光村」「日文」の3者を選定の候補といたしました。この3者から1者を選定いたします。

はじめに、前回の審議における小委員会委員長の報告や質疑応答の内容を整

理してみますと、美術におきましては、別冊資料の取り扱い、そして原寸大の作品の掲載、日本の美術などについて、各委員からご質問がありました。小委員会委員長からは、課題探究的な学習における主体的に学習を進めることができる学習の流れや、資料の取り扱いなどの視点において、各教科書の特長や違いが見られるとのことでありました。それでは前回の審議を踏まえまして、さらに各委員からご質問がございましたら、お願いいたします。

○道尻委員 美術に関してはやはり課題探究的な学習として、鑑賞の部分について各者の特長をもう一度教えていただけますでしょうか。

○教科用図書選定審議会委員 どの者についても子どもたちの鑑賞の深まりに迫るような題材の扱いが多かったのですが、特に特長があったものとしては、道の採択参考資料にも、鑑賞のページ数が多いというところを取り上げさせていただいたのですが、「光村」については、鑑賞題材のところで必ず体感ミュージアムというものを設定しています。今画面にお示ししているのは2、3年生 66ページのゲルニカの題材ですが、この体感ミュージアムというページの前に、見開きで大きな図版や関連する写真などの資料が掲載されています。その続きのページが体感ミュージアムということで、その作品についての解説や時代背景についての資料、その他、その作者の別の作品などが掲載されていて、非常に資料が充実しているというところが特長でした。

○道尻委員 ありがとうございます。鑑賞のところから更に繋がっていく、発展していくところだと思いますが、子どもたちが自分の感性や創造力を働かせて、造形的な視点で取り組んでいくというところでは、何か各者の特長はございますか。

○教科用図書選定審議会委員 今紹介したのは独立した鑑賞題材についての説明だったのですが、ほとんどの表現題材の導入段階で、鑑賞の活動が位置付けられておりまして、例えば「開隆堂」の2・3年生 10ページの風景画の題材にもあります。このような構成に各者力を入れており、資料が充実してところです。また、鑑賞にふさわしい特徴的な作品を載せて、鑑賞するときの視点もしっかりと示されているのが特長かと思います。「開隆堂」でいきますと、左上に鑑賞というマークがありまして、どのように物を見たらよいか、どこを見て鑑賞したらよいか、という指示がしっかり書かれております。それからその右にキャラクタ

一の吹き出しで、さらに鑑賞するときの視点が書かれているのがわかるかと思います。これは「光村」も同じような作りになっていまして、2・3年生54ページの自画像のページでは、左上に「鑑賞」というオレンジ色の欄がありまして、同じように「表現の工夫を感じ取ろう」と指示が書かれており、そして右の方には「ポイント」ということで、見るときのもう少し具体的な視点が補足説明的に書かれています。

「日文」も同じような構成になっていまして、例えば1年生の16ページの風景画ですが、左上に「鑑賞の入口」と小見出しがありまして、気になったことをどのように表現しているかという見方が書いてあり、そして作者の言葉や、右の方にいきますと、「造形的な視点」ということで吹き出しの中にもう少し具体的な着目点が書かれています。これはどこの者がというよりは、どの者も同じような工夫がなされていたかと思います。

○阿部委員 「光村」の中に、「みんなの工夫」というコーナーがあって、生徒さんたちの作品を掲載しているというようなページが所々ありますが、他の者にも同じようなページはあるのでしょうか。

○教科用図書選定審議会委員 この「みんなの工夫」というコーナーは「光村」の非常に大きな特長でして、このようにコーナーとしてまとめて掲載されているものは他にはなかったかと思います。他の者でいくと、「開隆堂」や「日文」も、色々な生徒作品が載っている中で、少し吹き出しなどで作者の思いが書かれています。作者の言葉というのはどの者にも載っていますので、そこで色々な工夫を知ることができるというような構成になっております。

○山根教育長 今の阿部委員の質問に関連してですが、「みんなの工夫」という、同じ中学生がこういう工夫をしましたみたいなものの教育的効果というか、授業においてはどのような受け止めなのでしょうか。

○教科用図書選定審議会委員 やはりなかなか発想が膨らまないと、自由に作ってごらんと言ったときに、何も言わなくてもどんどん進む子どもたちと、ちょっと苦手があってなかなか考えが先に進んでいかない子どもたちがおります。そのときに、他の人のアイデアも借りながら、自分の考えをまとめていきたい場合には、「みんなの工夫」というコーナーは非常に役立つのではないかと小委員会でも話題になりました。資料を使わないとなると、実際の授業では、教師が個

別に声掛けをしたり、席の近い子にこういうときにどうするのか聞いてみるよう促したりと、今までもやってきておりますが、自分のタイミングで見たいときに見て参考にできるというのはいいところかと思います。

○山根教育長 他にご質問いかがでしょうか。

○石井委員 1点質問させていただきます。「光村」の別冊資料の20ページに撮影禁止の場所や他の人の顔を無断で撮ることは、という著作権的な注意書きがあります。今回中学校の美術の教科書は、映像や写真を撮るという題材もありますが、著作権やそういったものを取り扱っている教科書としては「光村」が特長的なのでしょうか。

○教科用図書選定審議会委員 著作権の取り扱いについては美術でも非常に大事にしております、各者ともに掲載があります。「開隆堂」は1年生の巻末57ページの右側に、著作権を知ろうということで、1ページ使って分かりやすく掲載されております。他の2者につきましては、先ほどの「光村」同様に、映像表現に関わる場所の資料ページに注意書きがあります。今、スクリーンに映しておりますが、「日文」でいくと、2・3年下の53ページの右上にございます。

○山根教育長 他、ございますでしょうか。それでは、これまでの審議を踏まえて、札幌の子どもたちにとってこの教科書がより望ましいかということについて各委員からご意見を頂戴したいと思います。

○中野委員 私は3者を比べまして、かなり僅差だと思っております。前回は「日文」が教科書のサイズが大きくて他のところが小さかったのですけれど、今回は大きさも揃ってきて大判の見開きのページも増えてきて、かなり見やすさも内容も接近してきたというふうに思っておりますが、見比べますとやはり私今回も「日文」を選ぶべきだと思いました。理由としては、見開きの大きな図なのですが、どの者もそう大きく変わらず、どこの作品に注目するかということで違っているということなんですね。それで、要は原寸大の写真を載せているかということで、色々と映像資料が画像で添付されてますので、細かなものは自分で取り込んでみれば拡大はできます。従って実際の大きさがどのくらいなのかというイメージが湧くためには、この紙媒体に原寸大のものがあるということが非常に便利かなと思いました。原寸大の写真というのが、「日文」では4つ。

火焰型土器、神奈川冲浪裏、誕生、グランドジャット。「光村」が3つ。火焰型土器と鳥獣戯画と富嶽三十六景。「開隆堂」が5つ、モナリザとか色々あるのですが、原寸大のところが結構インパクトがあって、結構使いやすいのかなというところがありました。ただ各者とも、各者個性が出ていて、どれが一番いいのかっていうのが明確な差はないと思うんです。ただ私はゲルニカにおいて、戦争の悲惨さを示しているのは各者も同じですが、「日文」は2・3年生下 51 ページに、ゲルニカを引き継いで「あつぎキッズゲルニカ」といって、日本の子どもたちがゲルニカと同じような大きさのキャンパスに、反省の意義を込めて書いたという作品が載っております。そこが、ゲルニカとの繋がりが示されている、且つ、日本の子どもたちの作品が載るという意味では、「社会とのつながり」といった意味で良いのではないかと思います。その上の東日本大震災の「雪に包まれる被災地」のところにも、社会と関わる美術について掲載されてるということで、ここが良いかなと思いました。

2・3年生下 24 ページ、誕生という大判の絵ですが、左側に原図があって右側に拡大の原寸大というものが載っていますが、右側の原寸大が一体左のどこに載っているのか、わからず、気づくまでに時間が相当かかりました。やっぱり原寸大のほうが非常にわかりやすいということで、この辺の捉え方が上手いなと思いました。また、教科書の発色が、「日文」のほうが明確であるというところが目立ちまして、今回もやはり僅差ではありますが、美術の教科書としては「日文」が良いのかなというのが印象です。僅差で「日文」を継続するというのが私の意見です。

○山根教育長 はい、ありがとうございます。他いかがでしょうか。はい。

○阿部委員 私は「光村」というふうに思ってます。まず鑑賞のページ数が先ほどご説明にありましたように3者の中で一番多いというところと、課題探究的な学習の活動の取り扱いについては、まずストーリー性があって鑑賞、表現、次にみんなの工夫というような流れになっております。みんなの工夫があることで発想や構想段階が自分なりに思い浮かぶというところの後押しをこのコーナーではしてくれているのかなという印象があります。美術はもちろん作品としてどういう見せ方をしてるかというのは特長の1つにはなるとは思いますが、子どもたちが自分の作品を作るときにサポート体制があるかどうかという意味では、非常にこのコーナーが役立つんじゃないかと思ったところです。それから資料の取り扱いのところで、別冊の資料があることで今まで先生たちが用意し

ていた題材がもしかしたら必要なく、スムーズな学習活動に入れるんじゃないかというお話が前回ありましたので、そういった意味でも資料の取り扱いについて「光村」が他のところよりは長けているのではないかと考えております。また、2・3年生の教科書の和紙のコーナーも「光村」の特長だということでしたので、総合的に判断すると私は「光村」がいいんじゃないかなというふうに思います。以上です。

○石井委員 私も「光村」が良いと考えております。先ほど阿部委員からも意見があったように、課題研究的な学習の取り扱いという点でも、鑑賞、表現、また鑑賞といった学習の流れが非常にわかりやすいと思います。美術も好き嫌いははっきりわかれる教科だと思いますが、みんなの工夫というページでちょっと作品の構想がわからないという子どもにとっても、非常に助けになるのではないかと考えました。あとは、他者との関わりがあるのも「光村」の教科書の特長かと思っています。また、市民意見にもありましたが、資料の取り扱いのところで、やはり2・3年生の和紙のような特集ページは非常に良い特長だと思っております。ただ作品を載せるのではなくて、日本の美術について四季や動物といった鑑賞のポイントを示していますし、鳥獣戯画についてちょうど今札幌でも美術館で展示がありますが、カエルと転んでいるウサギとそれをはやし立てる他の動物っていう載せ方のところ、「光村」は原寸大の載せ方が上手だなというふうに思いました。国際性を育む学習の取り扱いという部分でも、「光村」は2・3年生の教科書98ページのところに美術史年表というものがありまして、こちらは社会科との繋がりや、いろんなところに国語科との繋がりを感じられるような部分もあるので、そういったいろんな面で「光村」の教科書が適しているのではないかなというふうに考えております。以上です。

○道尻委員 私も「光村」が良いのではないかなと思います。他の皆さんのご意見に加えて、生活の中で美術文化に関して資質や能力を高めていくということについても、「光村」が分かりやすく身近な素材や題材を取り上げていると思います。あと別冊資料ですね。これは市民意見でも評価されていますが、これが使いやすいという側面があるのではないかと考えます。

○佐藤委員 一般的な話になるかもしれませんが、文学作品を読むことや音楽、美術作品の鑑賞がなぜ学校の授業になるのかという観点から考えると、やはり小説を読んで単に感動した、あるいはいい音楽だと思った、あるいはいい作品だ

と思ったっていうのを自分で感じ取る分には、それで放っておいていいのであれば、それは学校の授業ではないと思います。学校の授業になるためには、鑑賞の手がかりというものが授業の中で示されて、最初自分のその知識がまだ十分じゃなくて感じ取れなかったことが、改めて浮き彫りになり、自分が気づかなかったところに気づかされるっていうのが鑑賞教育の授業であることの醍醐味だと思っています。そういう観点からすると、美術の学びやどうやって鑑賞したらいいのかというのを比較的多く指し示してくれているのは「光村」かと思います。これもさっきの音楽と同じですが、吹き出しが「光村」はすごく多くて、この絵について、どの点に注目して鑑賞したらいいのかということを示してくれている点で、私も「光村」を推したいと思います。

○山根教育長 はい、ありがとうございます。鑑賞面では色々ご意見も分かれたところではありますが、「光村」については表現創作という観点で優れているというご意見もあったかと思います。その点、中野委員いかがでしょうか。

○中野委員 日常的なことに非常に力点を置いて示しているということが「光村」の特長かなと思います。

ただ、鑑賞のところの数が多いっていうのは、主に和紙のところの作品が多いのですが、和紙を使うことのメリットは原寸の絵をいかに正確に表現できるのかということで、和紙にした方がよりよく表現できるというのであれば和紙にする必要があると思います。

触って鑑賞するものじゃありませんので、和紙にしたもので、見え方がどう変わるのかっていう観点で見ると、「日文」も「開隆堂」も似たような作品を扱っているのですが、和紙を使わない写真と見比べると、少し違います。

浮世絵について、発色は結構違うと思いますが、浮世絵以外については見比べてもそれほど差がないので、色々なものをいかに掲示しているかという観点で見ると、和紙のところにはいっぱい作品が載っているという面では「光村」が評価できると思います。「開隆堂」も重複している部分もあるので、和紙のメリットはそれほど感じられなかったところですが、共通作品以外のものが多少多いということが、「光村」の利点かなというふうには思いました。ただ、和紙以外のところの発色とかを見ますと、やはり「日文」のほうが少し秀でているという作品の載せ方がありましたので、「日文」のほうがまだ優れているのかなという印象ではありますが、皆さんが「光村」がいいと言うのであれば敢えて反論はしません。

○山根教育長 鑑賞面の部分はやはり皆さん色々お考え、視点があるのかなと思います。表現の部分で、何か中野委員、「日文」「光村」についてご意見はございますでしょうか。

○中野委員 私は、「日文」の発色が優れている部分が結構あると思っておりまして、1年生の14、15ページが結構特長を掴んでおります。あと、44、45ページの五輪のところで、フランスの今トピックスの写真の発色とかが結構印象的なところが何カ所かあります。3者とも似たような写真の撮り方がございますが、所々で「日文」が上回っているなというところはあると思います。ただ総じて、他も同じくらいの発色がございますので、決定的に違うというわけではないというふうに思います。

○山根教育長 ありがとうございます。多数決ということではございませんが、総合的に判断いたしますと札幌市の子どもたちにとって今回は「光村」ということでいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

(「はい」と発言する者あり)

○山根教育長 それでは美術については「光村」を選定することといたします。続きまして技術家庭について審議を行うます。はじめに技術分野であります。

○山根教育長 技術分野です。前回の審議におきまして、「東書」「教図」「開隆堂」の3者を選定の候補といたしました。この3者から1者を選定いたします。

はじめに、前回の審議におきます小委員会委員長の報告および質疑応答の内容を整理してみますと、技術分野においては別冊資料の取り扱い、製作物の事例の取り扱いなどについて各委員からご質問がございました。小委員会委員長からは、課題探究的な学習における課題設定や、情報の技術に関する取り扱いなどの視点において、各教科書の特長や違いが見られるとのことでありました。では、前回の審議を踏まえまして、さらに委員からご質問がございましたらお願いいたします。

○道尻委員 技術に関する課題探究的な学習で、問題を見いだして課題を設定して考えていくところの各者の特長について、今一度ご説明いただけますでしょうか。

○教科用図書選定審議会委員 課題探究的な学習の取り扱いについて、各者どの教科書も扱っているところではありますが、違いといたしましては前回もお伝えした通り、「東書」であれば、実習の中に、ものづくりの作業工程だけではなく、課題探究という流れ、例えば問題の発見や課題の解決にむけた構想、最終的に評価・改善というふうに示させておりますので、「東書」は実習の中にもこういったものが示されているという特長があります。併せて同じく、「開隆堂」の教科書ですが、こちらも「東書」と同じように、ものづくりの過程を中心とせず、課題探究的なところを中心とした問題の発見から製作（制作）、構想、評価・改善まで示しておりますので、課題探究的な扱いというところではこの2者に特長が見られます。以上です。

○山根教育長 他いかがでしょうか。

○山根教育長 SNS トラブルについて特長的な部分があれば教えていただけますか。

○教科用図書選定審議会委員 各者情報モラルについては3者とも扱っているところではあります。具体的に SNS のトラブルというと「開隆堂」234 ページで扱っています。学習課題のところで、SNS を利用する際にどのようなことに注意する必要があるかという題材がありまして、回答事例として 235 ページに、個人情報の扱いや、人権、プライバシーの保護等が提示されております。特に「開隆堂」については、SNS トラブルの中でも自分の個人情報を出してしまうという被害的な側面もありますが、誤って写真を投稿してしまうなどの加害者としての視点も、両方記載されているのが特長となっております。以上です。

○山根教育長 ありがとうございます。他いかがでしょうか。

○山根教育長 それでは、これまでの審議を踏まえまして、札幌の子どもたちにどの教科書がより望ましいかという部分についてご意見をお願いしたいと思います。よろしくお願いします。

○中野委員 プログラミングの授業があると思うのですが、教科書を見ても多分プログラムを組めないと思うんですけど、実際、授業をするときには教科

書をどう使っているのでしょうか。

○教科用図書選定審議会委員 使う教材にもよるのですが、教科書に多く載っているのはスクラッチなどのブロック言語が載っていると思います。基本的な操作については教師の方から教えたりするのですが、アイデア、ヒントとしては教科書の例示を見ながらやっているケースは多くあると聞いております。

○中野委員 あくまでも参考であるから、詳しく書いてあるからといってそれをそのまま使えるわけではないというレベルでしょうか。

○教科用図書選定審議会委員 その通りです。課題探究的な実習がメインになりますので、教科書の通りにやってしまうとそれは課題探究になりません。あくまでも参考として、各者色々と工夫されておりまして色んな事例が載っておりますので、いわゆる要素を組み合わせることによって、自らの課題に迫っていくということが実際にやっているところだと思います。

○中野委員 では、どの教科書になっても実害はなく、授業をするうえでは変わりはないということでしょうか。

○教科用図書選定審議会委員 どの教科書も検定をっておりますし、そういったところではそういう漏れはないと思いますので、大丈夫だと思います。

○中野委員 ありがとうございます。

○山根教育長 他、いかがでしょうか。

○佐藤委員 私は「開隆堂」を推したいと思います。理由としては、3者の中で最も落ち着いた構成で見開きのまとまりがいいというふうに感じたからです。それから問題解決の流れが全ての実習例に付されているという点も、優れているというふうに思います。

○石井委員 「開隆堂」と「東書」で非常に悩んで、どちらもいいなというふうに思っていたのですが、「開隆堂」の75ページに、SDGsに自分がどう関わってきたかを考える活動が載っていて、これは「東書」にはない部分かなと思いました。

て、私も佐藤委員同様、「開隆堂」が良いと思っております。以上です。

○道尻委員 私も先の2人と同じように、「開隆堂」がいいと思います。話と重なる部分がありますが、SDGs との絡みで振り返るページが設けられているというところが1つ、目標設定としてわかりやすいということと、美術でも話題になりましたが、知的財産の問題というところも、現代の社会では中学生のうちから不可欠ものになっているので、それについても学ぶことができる内容になっていると思います。

○阿部委員 私も「開隆堂」と思っております。課題探究的な学習の取り扱いというところで、前回も題材としてマルチラックの作り方というところの説明があったのですが、なぜこのマルチラックが必要なのかという問題の発見の仕方というところから、最終的には作って終わりじゃなくて、作ったものに対する評価と、もし改善点があるとしたらどういったところなんだろうかと、社会でも非常に重要なストーリーだと思います。そこがどのセクションでも丁寧に説明がされているというところが、他の教科書会社よりも少し進んでるのかと思います。もう1点としましては、全体的に情報がものすごく詳しく掲載されているというところがあるので、資料の情報の取り扱いという意味でも、非常に長けているのではないかと思います。以上です。

○中野委員 私は3者ともあまり差がはっきりわかりませんでした。が、「開隆堂」は情報モラルや知的財産のところ少し詳しく書いているところが特長かなと思いました。他の4人の委員が「開隆堂」ということであれば、それで結構です。

○山根教育長 はい、ありがとうございます。総合的に判断しますと、技術分野につきましては、「開隆堂」が札幌の場合より望ましいのではないかと思います。よろしいでしょうか。

(「はい」と発言する者あり)

○山根教育長 それでは、技術分野については「開隆堂」を選定することといたします。

次に家庭分野です。前回の審議におきまして「東書」「教図」「開隆堂」の3者を選定の候補といたしました。この3者から1者を選定いたします。

前回の審議を私なりに整理してみますと、家庭においては、子育てを支える仕

組みに係る取り扱いや、幼児との触れ合いに関する取り扱いについて、各委員からご意見ありました。小委員会委員長からは、課題探究的な学習の取り扱いにおける課題の設定や、家庭や地域社会との協力・協働に関する取り扱いなどの視点において、各教科書の特長や違いが見られるとのことでありました。これら前回の審議を踏まえまして、さらに各委員からご質問等がございましたら、よろしくお願いいたします。

○阿部委員 課題探究的な学習の取り扱いについて、3者の特長を改めて教えていただければと思います。

○教科用図書選定審議会委員 課題探究的な学習の取扱いについて、まず「東書」の130、131ページをご覧ください。「東書」「教図」の共通点について御説明いたします。「東書」は、学習課題がどの内容にも位置づけられているということ、同じく「教図」も166ページのように、1時間の中で学ぶ内容が提示されていることが共通しております。一方、「開隆堂」は190ページをご覧ください。課題に関する記載はないのですが、黄色の四角の部分から、まず自分の経験を振り返ることから学習がスタートする内容になっております。振り返る中で、子どもが日常生活と結び付けながら、1人1人自分事の課題を設定していくことが可能な構成となっているところが特長です。

○山根教育長 他、いかがでしょうか。

○山根教育長 それでは、どの教科書が望ましいかというご意見も含めて、お願いしたいと思います。

○道尻委員 「開隆堂」がいいのではないかと思います。今ご説明ありました通り、課題探究的な学習の観点で言いますと、日常生活における自分事の課題を見つける構成が取られているということ、それを基に話し合ってみるという活動を促すつくりりになっているという点が評価できると思います。あともう一つ、前回も話題になりましたが、子どもを育てる社会において、どのような支援がなされているかが取り上げられているという特長があります。今の社会の中で、色々な立場の人、境遇の方がいらっしゃるという理解にも繋がると思いますし、色々な困りごとを抱え込まないで社会の中で解決方法を見つけていくということにも繋がっていくと思いますので、「開隆堂」の教科書がその点で上回ってる

のではないかと思います。

○中野委員 私も「開隆堂」が優れていると思います。先ほどの技術ではあまり差がなかったと思いますが、家庭については「開隆堂」のほうが良いという気がしました。個人的には、調理例、調理方法の Q&A のところが非常に具体的で、示唆に富んでいて、料理をしたことがない人間にとっては、この Q&A が大変ありがたいです。あと札幌のヤングケアラーのことなど、そのような内容についてもきちんと書いていると思います。また、274 ページには消費者行動の問題として、アメリカに安く売ったテレビをみんな買わなくて、メーカーに値段を撤回させているというような事例も載っておりまして、消費者行動がメーカーを変えられることができるということを事例として挙げているところも評価できると思うので、「開隆堂」を選ばせていただきます。

○石井委員 私も「開隆堂」がいいなと考えております。他の委員からもありましたように、家庭や地域社会との協力・協働に関する取り扱いの部分で、多様な他者について考えるところが非常に充実していると思いました。ジェンダーやウェルビーイング、ヤングケアラーのような部分を考えることができるところに非常に好感を持っております。「開隆堂」は各章の冒頭に、自分の興味関心を大切にという言葉がありまして、ここは本当に 1 人 1 人の子どもたちの関心を引き出すのに役立つのではないかと考えております。ここも未来志向ですごくいいなと思っています。また、先ほど中野委員からの調理実習の部分のお話がありましたが、私も非常にここの Q&A が良いと思いました。例えば、128 ページの豚の生姜焼きを作るところですが、その Q&A は生姜を入れるとどうなるのかという、タンパク質の分解酵素について触れていて、料理は非常に身近な科学実験であるというところをすごく実感できると思っています。あとは観点とはずれてしまうかもしれませんが、104 ページの食べ物は体の中でどうなるのかという部分は、理科とも繋がるのではないかと考えています。札幌市の青少年科学館のボディーアドベンチャーにも繋がるのではないかなと思って、楽しく読ませていただきました。総合的に見て、「開隆堂」が良いのではないかに思います。以上です。

○阿部委員 私も皆さんと同じで「開隆堂」というふうに思っています。まず課題探究的な学習の取り扱いというところで、先ほど 3 者の比較をしていただきましたが、自分の経験を振り返ること、課題感を自ら発見していくことはすごく

大事な要素になると思います。生活の中で自分の課題は何だろうと考えるシーンは多いわけではないと思いますが、身近なものから題材として取り上げているところに共感しました。それと家庭や地域社会との協力・協働というところで、今札幌市においてはヤングケアラーについて課題感を持って取り扱っているところだと思いますが、今回ヤングケアラーについて扱っているのは、「開隆堂」のみというお話でしたし、2ページに渡ってヤングケアラーの説明をしており、現在社会のトレンドを扱っているところを評価しております。それと各ページに「参考」というコーナーがあって、コラム的な部分だと思いますが、補食のことや生活習慣病のことなど、ちょっとした生活のヒントが所々に掲載されていて、じっくり読むと大変かもしれませんが、各ページにあるところがポイントで、非常にいいなというふうに思いました。以上です。

○佐藤委員 私も「開隆堂」で、皆さんと同じです。敢えて付け加えるとすれば、技術でも家庭でも「開隆堂」は冒頭のガイダンスがいいと思います。他の者ももちろんついているのですが、「開隆堂」のガイダンスはとてもいい方向づけになるのではないかと思います。以上です。

○山根教育長 はい。ありがとうございます。では家庭分野につきましては、「開隆堂」が札幌市の子どもたちにとってより望ましいのではないかと考えられますが、よろしいでしょうか。

(「はい」と発言する者あり)

○山根教育長 ありがとうございます。それでは家庭分野については「開隆堂」を選定することといたします。

続きまして社会について審議を行います。最初に地理であります。前回の審議におきまして「東書」「教出」「帝国」の3者を選定の候補といたしました。この3者から1者を選定いたします。

はじめに前回の審議を整理してみますと、地理におきましては北海道地方に関する取り扱いや写真資料の取り扱い、これらについて各委員からご意見がありました。小委員会委員長の報告におきましては、課題探究的な学習における取り扱いや札幌らしさを学ぶ学習の推進の取り扱い、これらの観点において、各教科書の特長や違いが見られるとのことでありました。

それでは前回の審議を踏まえましてさらに各委員からご質問がございましたらお願いしたいと思います。

○山根教育長 よろしいでしょうか。ではどの教科書が望ましいかということについて委員からご意見を伺いたいと思います。改めまして質問があれば併せてお願いいたします。

○道尻委員 「帝国」がいいのではないかと思います。課題探究的な学習との絡みで言いますと、問いが適切な形で示されていて、学習の見通しをもって各項目に入っていけるということ、そして表現活動あるいは話し合いといったような学習に繋げていくという流れがよく組まれております。それから、内容的に言いますと、野生動物との共生の問題や北海道に関する記述、写真資料などが豊富にありまして、札幌らしさを深く学んでいくことができるかと考えたときに、単なる紹介にとどまらず、札幌市あるいは北海道といった北国の生活について、雪を資源として活用するなどそういったことが学べるという意味では、札幌市の子どもにふさわしいと思います。市民意見の中では、地図の色が綺麗、地図帳の繋がりがよいといったような評価もされているところでありまして、総合力として「帝国」が秀でているのではないかと感じました。以上です。

○阿部委員 私も同じく「帝国」がよいと思っております。まず、課題探究的な学習の取り扱いというところで、巻頭ページに思考ツールがありまして、どういうふうな考え方で考えを整理していったらいいかについて四つの思考ツールの紹介があり、実際に子どもが考えるときにはこれを活用して各ページでこんなふうに考えたらいいよという、導入部分がしっかりしております。また、「アクティブ地理」というところでは、課題解決に向けた取組の考え方というところで、子どもが考えを深めるような取り扱い方になっています。それから、「写真で眺める」というコーナーの写真の取り扱いがすごくダイナミックで、臨場感のある写真の扱い方をしていただいているというようなところが評価の対象になりました。以上です。

○石井委員 私も「帝国」が良いと考えております。2人の委員と同意見になるのですが、課題探究という部分で、「写真で眺める」であったり、あとは「技能を磨く」のところに、「アクティブ地理」でもそうですが、地図帳活用などいろいろな資料を使いながら学習することが可能である教科書が「帝国」だなというふうに感じました。そういった点で、資料をいろいろと使いながら、子どもの学習意欲を高める工夫がなされているなというふうに感じております。また、北海

道や札幌についてという部分でも、北海道の地域的特色をしっかりと掴んでいると思いました。例えば、雪の活用方法や 277 ページではクマのことにも触れていて、そういった野生動物の共生などについても子どもたちが考えることが可能なのではないかと考えております。以上です。

○中野委員 私もこの３者の中では「帝国」が一つ抜けているのではないかと印象がございます。各場所の地域的特徴を見事に捉えた写真の選択がまた素晴らしいので、見るとかなりその特徴がわかります。例えば、この関東地方の日本最大級のショッピングセンター、これは北海道にもございますが、３倍の大きさがあります。見た瞬間に、いかに関東地方の人口が多いかということが一瞬にして伝わるような、よく特徴を掴んでいるということがございますので、全般的に記述と写真、映像資料の総合的な組み合わせという点は、大変優れているのではないかと思いますので、私は「帝国」を推したいと思います。

○佐藤委員 私は各章・節のまとめの部分に注目して各者を比較していたのですが、そういう意味では「東書」「帝国」が拮抗しているなと思います。特に「東書」は、探究課題の解決プロセスというものが、流れとしてとても良いなと思っておりました。ただ、「帝国」も学習を振り返ろうの設問がしっかりあって、そこで課題解決の流れが示されているようですので、皆さん「帝国」ということであれば、私も「帝国」で異存はありません。

○山根教育長 はい、ありがとうございます。総合的に判断しますと地理につきましては、札幌の場合「帝国」がより望ましいのではないかと考えられますが、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

（「はい」と発言する者あり）

○山根教育長 はい、それでは地理については「帝国」を選定することといたします。

次に歴史です。前回の審議におきまして、歴史においては「東書」「帝国」の２者を選択の候補といたしました。この２者から１者を選定いたします。

はじめに前回の審議を私なりに整理してみますと、歴史においては、授業の導入の活動やまとめの取り扱い、歴史年表の取り扱い、思考ツールの取り扱いについて各委員からご意見がございました。小委員会委員長の報告におきましては、課題探究的な学習における導入やまとめの部分の設定、および北海道の歴史の

取り扱いの視点において、各教科書の特長や違いが見られるとのことでありました。前回の審議を踏まえまして、さらに質問がございましたらお願いいたします。

○山根教育長 それでは、どの教科書がより望ましいかということについて各委員からのご意見をお願いしたいと思います。

○佐藤委員 やはり「東書」を見ますと、導入の活動とまとめの活動の対応がしっかりしていて、とても良いと思うのですが、「帝国」はタイムトラベルという非常に大きな特長があって、そこで学習者の興味関心というものを非常に高めることができ、良い導入になっていると思います。また、「帝国」にも「学習を振り返ろう」というまとめがありますので、タイムトラベルと振り返ろうの対応がついていれば、「東書」を上回ってるのではないかと思います。この活用が良い影響を及ぼしているという話を前回伺いましたので、歴史についても「帝国」を推したいと思います。

○道尻委員 私も「帝国」が良いと思います。今、佐藤委員がおっしゃったことに加えると、北海道の独自の歴史の流れというのがわかりやすく示されているという点で、これは市民意見でもいくつかそういった意見が示されています。また、以前からも話題になってますが、巻末の年表というところでも北海道独自のまとめがされていること、あとは写真やイラストが大きくて、課題を考え、学習する活動にも使いやすいという意見も出ておりまして、そういったあたりを考えますと、総合的に「帝国」がいいのではないかと考えてございます。

○石井委員 私も課題探究と北海道の歴史の取扱いという点で、「帝国」が良いのではないかと考えております。先ほど、佐藤委員からお話がありましたとおり、タイムトラベルが非常に生徒の気持ちを掴みやすいのではないかなというふうに思っております。また、「アクティブ歴史」と「技能を磨く」というところも、歴史について非常に学びを深めてくれることができる部分ではないかなと思っております。先ほど道尻委員からお話がありましたように、北海道の歴史の取り扱いで、巻末の年表が北海道の時代区分のものもあるのが「帝国」かなと思ひまして、やはり北海道に住んでいる私達にとっては、こういった年表があるというのは非常に良いのではないかと思います。以上です。

○中野委員 私も「帝国」ではないかと思います。北海道、沖縄もそうですが、今まであまり記載がなかったところについても詳しく書いており、年表にもそれが反映されているということと、「アクティブ歴史」というところで深くいろいろと突っ込んだ項目もありまして、非常に深く歴史を学ぶことができるということから、「帝国」が良いと思います。

○阿部委員 私も皆さんと同じ「帝国」がいいと思ってます。先ほど、地理のところでもお話ししましたが、巻頭ページに考え方を整理する方法ということで、思考ツールの活用法というのが冒頭で示されております。考え方の整理が身につくとまではいかないかもしれませんが、こういう考え方があると最初に分かることがすごく重要なポイントになっているかと思います。他の委員の皆さんからもご案内があったように、タイムトラベルのところは、最終的に「見方・考え方」を働かせながら他者との協働作業で対話に進むというところが一つの特長になっているなというふうに感じました。以上です。

○山根教育長 はい、ありがとうございます。これまでのご意見から、歴史につきましては「帝国」が札幌市の子どもたちにとってより望ましいということによってよろしいでしょうか。

（「はい」と発言する者あり）

○山根教育長 ありがとうございます。それでは歴史については「帝国」を選定することといたします。

続きまして公民です。前回の審議におきまして、「東書」「帝国」の2者を選定の候補といたしました。この2者から1者を選定いたします。

はじめに、前回審議の内容を整理してみますと、公民においては選挙権や金融などの仕組みに係る取り扱い、学習内容を自分のこととして考える工夫や協働的な学びに繋げる工夫、これらについて各委員からご意見を賜りました。小委員会委員長の報告においては、課題探究的な学習の取り扱いや人間尊重の意識を醸成する学習の取り扱い、これらの観点において各教科書の特長や違いが見られるとのことでありました。前回の審議を踏まえまして、さらにご質問がございましたらお願いいたします。

○山根教育長 それでは、まず私の方からになりますが、これまでの議論でも話題になりました協働的に学ぶあるいは対話といった活動について、公民という

教科での意義と今回特長が見られた点を改めて教えていただきたいと思います。

○教科用図書選定審議会委員 社会科公民的分野におきましては、ただ単に自分の考えをもつということにとどまらず、社会にある多様な意見を聞き、受け止めながら自分の考えを作っていく、ということを重要視しております。特に公民的分野におきましては、合意形成の過程について学ぶということを大切にして教育活動を進めていますので、対話等の活動については特に重要なものとして位置付けております。例えば、「東書」38、39 ページをご覧ください。「東書」におきましては、導入の活動を通して、子どもたちが実際に葛藤するような内容を取り上げているというような特長をもっております。また、導入の活動における「みんなでチャレンジ」では、こちらの活動を通して、子どもが多種多様な他者と対話を重ねながら、正解が一つにとどまらない、いろいろなものの見方・考え方を経験していくといった活動が導入で位置付けられております。

一方、「帝国」30、31 ページをご覧ください。「帝国」につきましては、学習の導入段階でイラストを用いており、上部に示されたトライの活動を通して、多様な気づきを生む工夫が見られております。「帝国」は身近な場面のイラストを導入場面で位置付けておりまして、生徒同士の様々な気づきを出し合うというところに、特長があると見ております。

○山根教育長 その辺のアプローチの違いを、現状「東書」を使っているという観点などから、小委員会で何か話題になったことはありますでしょうか。

○教科用図書選定審議会委員 現行の「東書」の教科書を使っている中で、やはり導入の題材として、答えが一つに定まらないような場面を取り上げて、生徒に疑問をもたせるような工夫が見られたり、あるいは子ども同士、意見が分かれているような状況を生み出したりしているところから、子どもがこれからの学習の動機付けに効果的であるというような意見が小委員会の方では挙がっていました。

○山根教育長 ありがとうございます。他、いかがでしょうか。

○阿部委員 今、「東書」のみんなでチャレンジのご説明をいただいたと思うのですが、「帝国」の場合は「アクティブ公民」がそれに該当するのでしょうか。それともまた違うコーナーになるのでしょうか。

○教科用図書選定審議会委員 「帝国」の「アクティブ公民」につきましては、目次の方をご覧くださいと思います。「帝国」は「アクティブ公民」の内容が、所々、学習の導入というよりかは各章のまとめや、各章の途中で出てきているというようなところが特長となっております。「東書」においては、各章の導入段階において、導入の活動として取り上げられているという特長があります。

○中野委員 公民は政治・経済・国際と大きく三つの内容に分かれていますが、実際授業をしていて生徒さんがわかりづらいと言いますか、三つの領域のうち、一番教えづらいところがありますでしょうか。なんとなく私にとっては、経済がわかりづらいと思われます。政治の話は小学校でもありますが、経済や売買というところは中学生ぐらいからしかわからないと思うので、そこをどうやって理解させるのが難しいのかなと思っております。

○教科用図書選定審議会委員 経済の分野につきましては、中学生からすると少し理解するのが難しいような側面があるかもしれません。そこで、どちらの教科書においても18歳に向けた特設ページを設けておりました。学習指導要領においても、「経済活動の意義について理解すること」といったような規定もきちんとございますので、やはり、これからの18歳成人を見据えた上で、経済も含めてしっかりと理解をしていかなければならない内容になってくるだろうと思います。

○佐藤委員 「帝国」の公民には歴史の「タイムトラベル」と似たような、先ほど紹介のあった学習の前にトライというものが掲載されているのですが、これは歴史と同じように授業の中で有効に使えるそうですか。それとも、振り返りとの対応という点で考えると、ずれがあるなどといった印象があるかを聞かせていただきたいと思います。

○教科用図書選定審議会委員 「帝国」においても目次をご覧くださいますと、各章の前に「学習の前に」といった導入のページが位置付いております。それぞれ開いていただきますと、先ほどお示したようなイラストを用いた活動が展開されております。このイラストを用いて生徒が資料を基に多様な気づきを生んだり、トライの活動の中の「対話」というマークにあるように、導入段階で生徒が一人で取り組むというような形ではなく、協働的な学びを通して、いろいろ

な気づきを生み出したりと、その後の学習に繋げていくといった展開が考えられるのではないかと捉えております。

○佐藤委員 ありがとうございます。もう一つ質問ですが、思考ツールというものを公民ではよく導入されているのですが、そのツールの使い方に両者で違いはありますでしょうか。

○教科用図書選定審議会委員 例えば「帝国」でいきますと、110、111 ページをご覧ください。「帝国」においては、章のまとめの学習において、思考ツールを用いて学習内容を整理しており、右側の章の振り返りにおいてもステップを踏む中で、思考ツールを使いながら学習内容を整理していくといった特長が見られます。

一方、「東書」の 178 ページをご覧ください。「東書」におきましては各章のまとめの活動に基本的に 4 ページを割いている展開となっております。176、177 ページのまとめを基に、178 ページにある「深めよう」というようなページにおいて、導入の活動を踏まえて、改めて「みんなでチャレンジ」等の活動の中で思考ツールの活用も踏まえながら、学習を深めていくといったところに活用の特長があると捉えております。

○山根教育長 ありがとうございます。他、いかがでしょうか。

○山根教育長 それではどの教科書がより望ましいかということについて御意見をお願いしたいと思います。併せて質問があればお願いします。

○中野委員 私は公民も「帝国」がいいかなという印象がございまして、経済の契約とかお金とか金融のところが少し詳しくわかりやすく書かれています。政治のところは率直に言ってあまり差はないような気がします。ただ、あともう一つ細かいところで子ども食堂や侮辱罪について触れているところが、今日的な内容の政治の部分が入っておりますので、どちらかというところ「帝国」のほうが、今問題となっているところに注目していいのかなと思います。学習が終わった後にまとめのところで深掘りするという構成も、導入が少し大変だということがあると思いますが、歴史と同じように見開きの導入の絵のところを経て、公民に入るといったようなやり方をしたら実際の授業は可能かなと思いますので、「帝国」というように思いました。

○道尻委員 本当に難しい判断だと思います。課題探究的な学習の観点で言えば差があまり感じられないかなと思います。導入の部分の目標設定もそうですし、先ほどご紹介いただいたまとめの部分のページ、ここもそれぞれしっかりと作られていて、どちらの教科書も良くできているのではないかと思います。あとは北海道や道内市町村に関する記述もどちらも充実しており、札幌市の子どもにとって望ましい内容が書かれていると思いますので、そういったあたりは、なかなか甲乙つけがたいところです。敢えてということ言えば「帝国」の方が人権についての記載がわかりやすいということとか、ジェンダーの問題など、今日的な人権課題についての記載が充実しているといったあたりで、若干「帝国」の方が上回っているかなという印象でそちらを推したいと思います。

○石井委員 「東書」と「帝国」で非常に悩んだのですが、導入の部分ではそんなに差はなくどちらも良いなというふうに思いました。ただ「帝国」の歴史や地理でもそうだったのですが、「アクティブ公民」というところと、公民にある「18歳の準備」というところが非常に良いなというふうに思いました。子どもたちが自分の日常生活と公民で学んだことを結び付けて考えられる題材が多くて良いなと思いました。例えば 130 ページの一人暮らしにはお金がいくらかかるかということですか、155 ページには金融について考えるページがあって、一見すると遠いことのように感じるのですが、書き方や流れが非常に中学生が自分事として公民について身近に感じられる題材を取り扱っているなど感じて、そういった点で「帝国」が良いかなと思っております。

○阿部委員 私も 2 者で非常に迷うところですが、違いとしては中野委員と全く同じ意見で、お金の面が「帝国」の方が上回っているという印象があります。例えば、電子マネーや暗号資産のこと、そういったところでは「帝国」の方が詳しく掲載しているということと、石井委員もお話ありますように、私も 154、155 ページの「ライフプランから金融を考えよう」は「帝国」の特長です。今私達の会社でもライフプランについて考える機会というのが非常に多くなってきております。それは、やはり人生 100 年時代というバックボーンもあるからだと思うのですが、中学校の時代から自身のライフプラン、将来どういう生き方をしていこうかということと、生きていくためにお金はどうしても欠かせない部分があるということについて、お金とライフと一緒に考えるいいきっかけになるんじゃないかというところが、なかなか「東書」にはないところだったな

というところで、どちらも優れてるのですけれども、どちらかというと「帝国」と考えました。以上です。

○佐藤委員 私も本当にどちらも拮抗しているなと思うんですけれども、今まで皆さんがおっしゃっていただいたことに加えるとすれば、私は先ほど質問した「学習の前に」のトライを、歴史と一緒にというか同じような形で、一度札幌の子どもたちに視覚的な絵を見せて、ここから議論を始めるということをチャレンジ、トライしてみたらどうかということについてすごく興味があるので、私も「帝国」を推したいと思います。

○山根教育長 はい、ありがとうございます。それでは、公民につきましては、「帝国」が札幌市の子どもたちにとってより望ましいのではないかということによろしいでしょうか。

（「はい」と発言する者あり）

○山根教育長 ありがとうございます。それでは公民につきましては「帝国」を選定することといたします。

最後に、地図であります。前回の審議におきまして地図は「東書」及び「帝国」の2者を選定の候補といたしました。この2者から1者を選定いたします。

前回の審議をまとめてみますと、小委員会委員長の報告においては、身近な教材の取り扱いや、地図資料の活用方法、統計資料の取り扱い、これらの視点において各教科書の特長や違いが見られるということでありました。前回の審議も踏まえまして、さらに各委員からご質問がございましたらお願いいたします。

○山根教育長 それぞれ2者のうち北海道・札幌に関する記述等、特長的な部分があれば教えていただけますでしょうか。

○教科用図書選定審議会委員 札幌の記載というところではいきますと、「帝国」154ページになります。以前もご説明したところではありますが、北海道地方の資料において、札幌市への雪への備えというところで、札幌市の雪対策について掲載しているところが特長となっております。それから「東書」に関しましては、具体的に札幌にというよりは北海道地方の資料の中で記載がされているような例がありまして、このように札幌市を取り上げてという記載はあまり見られないところになっております。

○山根教育長　ありがとうございます。その他、ございますでしょうか。

○山根教育長　それでは札幌でどの教科書が望ましいかということも含めましてご意見を伺いたいと思います。質問がございましたら併せてお願いいたします。

○道尻委員　内容的に北海道を含めて充実していて、使い勝手、見やすさ全般的なところで「帝国」が良いのではないかと思います。教科書との連携というと、他の社会の教科書との兼ね合いも考えると「帝国」が更に妥当ではないかと思えます。市民意見でも「帝国」の地図は評価されているところです。以上です。

○中野委員　私も「帝国」がいいと思います。統計的な図表も出てますが、出ているデータが細かくて意図があるということがございまして、「帝国」の44ページと「東書」の32ページを比べますと、かなりそれが明らかなです。「帝国」の44ページには西アジアからの輸出品の話で、「東書」も輸出品のところがあるのですが、「東書」のほうは輸出品として、イラクとかサウジアラビアとかアラブ首長国連邦とか石油が多いという当たり前の話でさっと流されちゃうのですが、「帝国」の44ページでは、日本にどの国がどれだけ輸出しているかという表がございまして、これですとアラブ首長国連邦の1位が日本になっていて、サウジアラビアが2位、クウェートが3位となっていて、3つの国と日本の結び付きが、どちらが深いかということが、この表を見ると一目瞭然です。そういうような統計の裏側が関係して出てくるところが選んだところでして、全般的な輸出1位、2位というだけだとそこは出てきません。出している意図として、この背景を説明するために図表・統計が出ているところもあったので、単なる地図にとどまらず、「帝国」はいろいろと説明の要素が多く、選びたいと思います。

○阿部委員　私も「帝国」がいいと思います。2人の委員の意見とほとんど同様なのですが、その他に「地図で発見」というコーナーが各ページの要所要所に出てきていて、そこで気付きや発見と、思考に繋げるような質問というような形になってるので、そういうところも非常に使い勝手がいいのかなという印象を受けました。以上です。

○佐藤委員　私も同意見です。特に社会科各分野との対応付けで生かして使っ

ていただければと思います。

○石井委員 私も「帝国」が良いかなというふうに思っています。他の委員と同じ意見なのですが、特に北海道に関する資料が多いという点で「帝国」が良いのではないかなというふうに考えております。以上です。

○山根教育長 はい。ありがとうございます。それで地図につきましては「帝国」がより望ましいということですのでよろしいでしょうか。

(「はい」と発言する者あり)

○山根教育長 それでは地図については「帝国」を選定することといたします。それではここで15分休憩したいと思います。16時半再開ということでお願いいたします。

(休憩)

○山根教育長 それでは審議を再開いたします。ここからは高等学校および中等教育学校後期課程用の教科用図書について審議をいたします。

その前に私から部会長に確認をさせていただきたいことがあります。特定の組織や団体、あるいは会社等から働きかけや影響力の行使、圧力等はないということですのでよろしいでしょうか。

(「なし」と発言する者あり)

○山根教育長 ありがとうございます。それでは、高等学校部会の部会長調査研究報告の説明をお願いいたします。

○高等学校・中等教育学校後期課程部会部長 高等学校・中等教育学校後期課程部会部長の札幌旭丘高等学校長尾崎と申します。私から答申の主な内容につきましてご説明いたします。なお、部会名につきましては高等学校部会、教科用図書については教科書と省略して説明させていただきます。

高等学校では、義務教育である小学校や中学校が全ての学校で同一の教科書を使用するのとは異なり、各学校に設置されました、保護者委員を必ず含む教科書選定委員会において、その学校に適した全ての教科・科目の使用希望教科書を学校ごとに選定しており、各校からは、それをまとめた令和7年度教科用図書選

定候補一覧表の提出を受けております。

高等学校部会におきましては、教科ごとに小委員会を設け、提出された一覧表を基礎資料として、教科書編修趣意書および教科書見本等を参考に調査研究を行い、選定理由を精査し、まとめたものをこの度、お手元にあります報告書(答申)といたしました。

それでは、答申の高校 1 ページ、令和 7 年度使用教科用図書選定状況をご覧ください。

よろしいでしょうか。表の右下に網掛けをしております通り、選定点数の合計は 504 点となっておりますが、その一段上に選定候補として 2 点、日本語の教科書が記載されております。これは大通高校におきまして、海外帰国生徒等卒などで入学しました生徒が、日本語を学ぶためのものですが、学校教育法附則第 9 条の規定により、教科書目録以外の一般図書から選定したものととなりますので、今回は教科書目録から延べ 502 点を選定候補とし、そのうち新規のものが 46 点となっております。なお、令和 7 年度使用の教科書目録には、合計 710 点の教科書が掲載されております。続いて高校 3 ページをご覧ください。答申の見方につきまして、旭丘高校の表を例にご説明いたします。

各校の一覧表の冒頭には、各校が定めております学校教育目標、重点目標、教育課程の編成方針を記載しており、これらを踏まえ、教科ごとに設定している学習指導上の重点項目につきましては、各教科の冒頭にそれぞれ示しております。なお、この先、ポイントとなる部分には網掛けを施すとともに、少々わかりづらい部分もありますが、太字で記載をしております。次に、各科目の記載ですが、一番左が、科目名、2 列目には使用する学年を記載しておりますが、単位制の高校においては学年がないため空欄としております。3 列目は教科書名、4 列目は発行者となります。5 列目には新規・継続の別を記載しており、現代国語の継 4 とは、今回の採択を経て継続 4 年目の教科書となることを示しております。そして、その 1 番右側の欄には、その教科書が各学校の学習指導上の重点項目に照らして、ふさわしい理由を明記しております。

それでは、答申の内容について今回、私が数学科小委員会の委員でもありますので、教科数学の中で、必履修科目、数学Ⅰについて、各学校が生徒の能力や適性等を踏まえて設定しました、学校教育目標、教育課程の編成の方針、各教科の学習指導上の重点項目と、使用希望教科書との整合性がわかるよう、旭丘高校と大通高校の 2 校例に挙げ、ご説明いたします。

今ご覧いただいている旭丘高校の資料の 1 段目、学校教育目標の育てたい生徒像(1)では、獲得した知識や技術を活用し、論理的・科学的考察によって真理を探

究する生徒としており、3 段目、教育課程の編成の方針(3)では、生徒の主体的、意欲的な探究活動を促し、自主・自律を育てると記載されております。続いて、高校 6 ページ上段の網かけをつけた普通科の数学における学習指導上の重点項目の方をご覧ください。太字で書かれていますように、事象を数学的に考察し、表現する能力を伸ばすとともに、それらを積極的に活用する態度を育てるとあり、これらのことから、旭丘高校では、特に探究的な活動を通して生徒が論理的・科学的に考察し、自主・自律を育てることに重点を置いていることがお分かりになると思います。

それではここから前方のスクリーンをご覧ください。こちらの教科書は、旭丘高校で選定候補としております、数研出版の数学Ⅰの抜粋となります。左上の赤枠を付けた部分は、その項目で学習する内容を示し、生徒が自ら目標を持って学習に取り組めるようになっております。その上で、例、問、練習、そして応用例題と様々なタイプの問題で理解を深めていく構成となっております。特にページ右下の深めるでは、その上にある例について、見方を変えて考える問題となっており、思考力、判断力、そして表現力を育成することができます。こちらの研究では、本文の内容に関連したややレベルの高い内容や、数学の理論や奥深さにも触れられる内容を扱うなど、選定理由の基本から応用まで幅広い学習内容が網羅された教科書となっております。こちらのコラムでは、最大限の利益を得られるパンの価格設定という興味深い話題が取り上げられておりまして、事象を数学的に考察し、表現する能力を伸ばすことに繋がる題材となっております。選定理由の生徒の興味づけや関心を高めることが可能な構成となっております。巻末の発展、課題学習では、生徒が主体的に取り組む課題が掲載されておりまして、教育課程の編成の方針であります、生徒の主体的・意欲的な探究活動を促し、自主・自立を育てることに繋がる教科書となっております。これらのことから、この教科書は、教育課程の編成の方針や学習指導上の重点項目に照らし、旭丘高校が使用するものとしてふさわしいものであると考えております。

次にお手元の答申をご覧ください。高校 93 ページになります。こちらは大通高校の一覧表というふうになっております。上から 3 段目の網かけをつけた教育課程編成の方針の右側に太字で記載されていますが、(1)では生徒の様々な学習状況に対応するため、多様な指導形態を設定する。(3)では生徒 1 人 1 人の能力に応じたきめ細やかな指導により、基礎・基本の定着を図るとしてあります。続きまして高校 96 ページ、網掛けをつけた大通高校の数学の学習指導上の重点項目の右側をご覧ください。太字で示した部分に、数学における基本的な概念や原理・法則の体系的な理解を深め、とあり、多様な生徒が在籍します同校では、

基礎・基本の定着を図ることに重点を置いてあります。それではスライドの方をお願いいたします。それではここから前方のスクリーンをご覧くださいと思います。こちらの教科書は大通高校で選定点候補としております、数研出版の新高校の数学Ⅰの抜粋となります。ご覧の通り、各所に問題をイメージしやすい図、イラスト、そして写真が豊富に掲載されております。左側中段の赤枠にあります、復というマークがついた部分は、中学校から今までの既習事項の確認事項で学習の繋がりを意識できるようになっており、左下の赤枠にあります日常のマークがついた問題は、実生活と関連する題材で、数学を使って実生活の問題を解決することを実感しやすくする工夫がなされております。このように様々なマークをつけることにより、生徒の興味・関心を喚起し、基礎・基本の定着を図ることができる構成となっております。こちらのまとめのページでは、平易でわかりやすい記述で記載するとともに、色付きでポイントを示すことで、視覚的にわかりやすくまとめられているため、学習した内容を整理しながら、基本的な概念や原理・原則を体系的に理解できるように工夫されております。単元の最後にあります確認問題、ここでは、理解が不十分だったとしましても、振り返ろうで、どの問題を復習すると良いかが示されております。理解度に差があっても、学習内容の定着を図りやすい構成となっております。こちらのページの右下、赤枠のリンクというマークのついた部分は、インターネット上に学習に関するアニメーション、参考資料、そして補充などが用意されていることを示しておりまして、選定理由の3つ目にあります、生徒の理解を促すデジタルコンテンツを活用することができます。特にもっと練習しようというマークがついていますと、発展的な問題が用意されておりまして、選定理由の1つ目にあります、個々の能力に応じて基礎から発展まで学習できるような構成となっております。また、教科書が大判で構成内容が厳選されているとともに、全体的に解説が丁寧であり、選定理由の2つ目にあります、配当単位時間で余すことなく履修することができる分量となっております。以上のことから、学習指導上の重点項目に照らし、大通高校が使用する教科書としてふさわしいものであると考えております。

以上、本日は2校の数学Ⅰの教科書を例にご説明させていただきましたが、いずれの学校のいずれも教科・科目についても同様に調査研究を行い、この答申にあります教科書については全てふさわしいものであることを確認しております。なお、全体的な教科書の傾向としましては、札幌市の学校教育において大切にしております課題探究的な学習ができるような作りになっており、生徒1人1人の主体性を大切にした多様な学びの実現に資するものとなっております。加えて、全日制課程普通科や数理データサイエンス科、および中等教育学校後期

課程では、生徒の能力や進路希望に応じて、より深い学びにも対応できるもの、そして、全日制課程みらい商学科におきましては、生徒の興味関心を喚起し、主体的に取り組みやすいものを選定候補としております。また、定時制課程であります大通高校および高等学校に準じた教育課程を編成しております、山の手支援学校高等部におきましては、基礎・基本の定着を図るとともに、個に応じた指導が充実するように十分配慮されたものとなっております。以上で高等学校部会の調査研究報告書括弧答申の説明を終えさせていただきます。

○山根教育長 ありがとうございます。高等学校および中等教育学校後期課程用の教科用図書につきましては、審議会から学校ごとにそれぞれの教育課程に応じた選定の候補が挙げられております。各委員からご質問、ご意見がございましたらお願いいたします。

○中野委員 今、数学Ⅰの数研の教科書が2種類あって、使い分けたということをお話いただいたのですが、参考程度にお聞きしたいのですが、「数研」に限ると言うと、数学Ⅰの教科書はもっと何種類も作っているのでしょうか。

○高等学校・中等教育学校後期課程部会部長 「数研」で4種類作っております。

○中野委員 難易度で4種類違うということでしょうか。ちなみにこの2校は何番目と何番目を使われているのでしょうか。

○高等学校・中等教育学校後期課程部会部長部会長 1番目と4番目です。

○山根教育長 他、いかがでしょうか。

○山根教育長 よろしいでしょうか。なければ、高等学校および中等教育学校後期課程につきましては、候補として挙げられた教科用図書を選定することとしてよろしいでしょうか。

(「はい」と発言する者あり)

○山根教育長 それでは最後に特別支援教育用の教科用図書について審議いたします。

まず私から部会長に確認させていただきたいことがあります。特定の組織や団

体、あるいは会社等から働きかけや影響力の行使、圧力等はないということによってよいのでしょうか。

(「なし」と発言する者あり)

○山根教育長 それでは特別支援教育部会の部会長調査研究報告の説明をお願いいたします。

○特別支援教育部会部長 特別支援教育部会長の栄町小学校長、荻澤と申します。どうぞよろしくお願いいたします。それでは、特別支援教育部の方針についてご説明いたします。

はじめに、特別支援教育用の教科用図書に関する法令上の規定についてご説明いたします。スクリーンをご覧ください。

特別支援学校小中学部や小・中学校に設置している特別支援学級に在籍する児童生徒が使用する教科用図書においては、まず①のように札幌市が採択した通常の学級用の小学校、中学校の文部科学省検定済み教科用図書の各教科の当該学年のものを使用することが基本となります。しかし、特別支援学校や特別支援学級においては、児童生徒の障がいの状態や発達の段階に応じて、各教科の目標や内容を、下の学年のものに変えるなど、1人1人に応じた特別の教育課程を編成することができますので、①の当該学年の教科書を使用することが適当でないときは、設置者の定めるところにより、他の適切な教科書を使用することができるようになっております。そこで②のように、札幌市が採択した小学校および中学校の文部科学省検定済み教科用図書の各教科の下の学年のものを使用することができます。また、各教科の下の学年のものの中で、適当なものがない場合には、③のように文部科学省が知的に障がいのある児童生徒用に著作した教科用図書、お手元の星印の付いた教科用図書になりますが、こちらを使用することができます。こちらの教科用図書は、国語、社会、算数・数学、理科、生活、音楽、職業・家庭の7教科について作成されており今年度より新たに社会と理科、職業・家庭が追加されております。さらに、④のように各教科の内容と関連が深い絵本や図鑑など、いわゆる一般図書についても、教科用図書として使用することができることになっており、このことが学校教育法附則第9条に規定されております。このように、特別支援学校や特別支援学級に在籍する児童生徒は、幅広い教科用図書の中から、児童生徒の障がいの状態や発達の段階に応じて、①から④の段階の中から、適当な内容のものを選ぶことができるようになっております。このうち、特別支援教育部会においては、④の一般図書について調査研究

を進めてまいりました。また、特別支援学校高等部の教科用図書につきましては、これまでご説明した教科用図書に加え、高等学校用教科書目録に掲載されている文部科学省検定済み教科書を使用することができる。また、高等部の生徒の実態に応じた一般図書を使用する場合には、高等学校と同様に、校長を委員長とする教科書選定委員会を設置し、学校で使用する一般図書の候補として選ぶこととしております。今年度は市立札幌豊明高等支援学校から1冊、市立札幌みなみの杜高等支援学校から4冊、市立札幌北翔支援学校高等部から3冊、市立札幌山の手支援学校高等部普通科重複障がい学級から1冊の一般図書が選定の候補となりましたので、他の一般図書と併せて調査研究を進めてまいりました。

次に、調査研究の観点でございますが、調査研究の基本方針に基づき、取り扱い内容、内容の程度、配列、分量等使用上の配慮に加え、昨年度の需要数などについても確認し、本市の特別支援学校や特別支援学級に在籍する児童生徒一人一人が効果的に活用できる図書について、慎重かつ精力的に調査研究を重ねてまいりました。具体的には、北海道教育委員会が示す学校教育法附則第9条の規定による図書採択参考資料を参考に、そこに掲載されている333冊の一般図書について調査研究を行いました。さらに、昨年度までの調査研究により、採択参考資料の対象となっていない一般図書1冊、今年度審議委員会から新たに推薦のあった採択参考資料の対象となっていない一般図書32冊、および市立特別支援学校高等部から選定の候補として候補に挙がった一般図書9冊を加え、全部で375冊の一般図書について調査研究に当たっております。

これらの審議の結果、令和7年度使用の特別支援教育用教科書として、調査研究報告書答申の特支使1ページから5ページの一覧でございますように、1ページ目の1文部科学省検定済み教科書の下学年用および同一内容の拡大教科書、1ページ目下段の2文部科学省著作教科用図書特別支援学校知的障害者用、2ページ目3一般図書、くまたんのはじめてシリーズよめる よめるよ あいうえお、外174冊、5ページ目4特別支援学校市立特別支援学校高等用一般図書9冊、これらを採択の候補といたしました。なお、調査研究報告書、答申の特支2ページから5ページの一般図書一覧の右側に、新規継続の中に新と記載されている教科書は、新しく採択の候補とした図書であり、令和7年度は64冊を新しく採択の候補としております。

次に、採択の候補とした一般図書についてご説明をいたします。見本は1冊しかございませんので、スクリーンをご覧ください。調査研究報告書には、発達の段階をA B Cの3つの段階で示しており、Aの段階は発達の程度が重度、Bは中度、Cは軽度となっており、児童生徒の障がいの状態や発達の段階に応じて、適

切な図書を選べるようにしております。Aの段階としましては話し言葉がない子や、事物への興味関心が出始め、簡単な物の分別が可能な段階の児童生徒が対象であり、教師などの話しかけに応じ、表情・身振り・音声で表現することや、教師と一緒に身近なものなどについて、本を通して楽しく学べるものをどの種目においても採択の候補としております。例えば、国語の『あいうえ おべんとう』では、左のページにお弁当のイラストが書かれており、右側ページには、お弁当に入っているあ行のおかずの名前が文字で書かれています。あっちゃんのお弁当なんだろうなど、ページをめくるなど、楽しみながら様々な食べ物の名称を覚えることができるよう工夫されております。

次に、算数・数学の、『さわってあそぼう ふわふわアヒル』では、ページをめくると黄色いふわふわの丸が出現し、仕掛けをめくるとアヒルの子のイラストが出てくるなど、各ページごとにザラザラやべたべたなどの様々な感触を体験しながら、形を認識することができるよう配慮されています。

Bの段階としましては、話し言葉があり、文字の読み書きに興味をもち始め、事物の簡単な因果関係が分かる段階の児童生徒などが対象であり、簡単な言葉でやり取りをしながら学習を進めたり、各種目の基礎的な内容について興味をもちながら学習をしたりすることができる図書を採択の候補としております。

例えば、国語の『ゆっくり学ぶ子のための こくご1』では、気持ちや様子を表す言葉や、しりとりなどの学習を通して、平仮名の読み方や簡単な単語、文章の読みなど、豊かなイラストから子どもの語彙を増やしていけるよう工夫されています。

次に、算数・数学の『こども かずの絵じてん』では、一対一対応、数の数え方、引き算など基礎的な概念を獲得できるよう配慮されています。Cの段階としましては、簡単な読み書きは可能ですが、検定済み教科用図書では、学習が困難な段階の児童生徒などが対象であり、ある程度の小集団での一斉指導や調べ学習などで、より知識を高めることができ、日常的に活用できる内容の図書を採択の候補としております。例えば、『改訂新版 くらしに役立つ 国語』では、自己紹介をしよう、お世話になった人にお礼の手紙を書こう、思い出を文章にして残そう、このように、聞く、話す、読む、書くなどについて横断的に学ぶことで、コミュニケーションの基礎を重視しつつ、会話や読書、作文などに楽しく興味をもてるよう工夫されています。

次に、社会の『改訂新版 くらしに役立つ 社会』では、公共施設の役割と利用の仕方、自然災害を防ぐ工夫、食料や輸送や販売、このようなものが取り上げられており、将来の自立を見据えて、学習を進めることができるよう工夫されてい

ます。

以上のように、種目ごとにA、B、Cの段階があり、各段階の中でもさらに、児童生徒の障がいの状態や発達の段階にきめ細かく応じるために、それぞれに複数冊を選定の候補としております。

次に、市立特別支援学校高等部用の一般図書について、各校1冊ずつご説明いたします。豊明高等支援学校では、職業科で『ひとりだちするための進路学習』を採択の候補としております。この図書では、就労に向けた基礎的な知識や技能を身に付けることができるよう、働くことや働くために、社会人になるなどの六つの章で構成されております。具体的な内容といたしましては、働く人の一日、人とのつきあい、社会人の生活など、就労に向けた幅広い内容について、イラストなどを使いながら分かりやすくまとめられています。

次にみなみの杜高等支援学校では、情報科で『見てわかる情報モラル』を採択の候補としております。この図書では、基礎的基本的な情報モラルに関する事項を取り上げ、生徒が陥りやすい事例について学習することができます。具体的な内容としましては、誹謗中傷、肖像権とプライバシー、このように具体的な事例が4コマ漫画や予防と対策などの項目ごとに分けて、分かりやすく解説されています。

次に、北翔支援学校高等部では、職業科で『みんなのためのルールブック あたり前だけどとても大切なこと』を採択の候補としております。この図書では、他者とのコミュニケーションを円滑にし、社会に出てからも大切にしていきたいマナーやルールを学ぶことができるよう工夫されています。具体的な内容といたしましては、だれかがすばらしいことをしたら拍手をしよう、お客さまを歓迎しようなど、状況をイメージしやすく、親しみのもてるイラストとともに、短く、分かりやすい言葉により解説をされています。

最後に、山の手支援学校高等部普通科重複障がい学級では、外国語で『Let's Try!』を採択の候補としています。この図書では、英語の音声やリズムを楽しむ、好みを表したり、好きかどうかを尋ねたり答えたりする表現などについて学習することができます。具体的な内容としましては、「Hello!」あいさつをして友達になろう、I like blue すきなものをつたえよう、「This is for you」カードをおくろうなど、聞くこと、話すことを通して、外国語に慣れ親しみ、楽しみながらコミュニケーションを図ることができるよう工夫されております。説明は以上となりますが、その他の採択の候補となる図書につきましても、同様に調査研究を行った結果、本市の特別支援学校および特別支援学級に在籍する児童生徒一人一人が活用していく上で、有用性のある図書であることを確認して

おります。以上、お手元の調査研究報告書のとおり、部会としてまとめたことをご報告申し上げ、私からの説明を終わらせていただきます。よろしくお願いいたします。

○山根教育長 特別支援教育用については児童生徒の障がいの種類や程度に応じて、一人一人に適した教科用図書を提供できるようにするという観点から、各種目とも幅広く選定の候補が挙げられております。各委員からご質問ご意見などがございましたらお願いいたします。

○山根教育長 よろしいでしょうか。

○山根教育長 それでは特別支援教育用につきましては、候補として挙げられた教科用図書を選定することとしてよろしいでしょうか。

(「はい」と発言する者あり)

○山根教育長 ありがとうございます。これまでの審議におきまして中学校の教科用図書、高等学校および中等教育学校後期課程用教科用図書並びに特別支援教育用教科用図書の選定が終了いたしました。

○山根教育長 これらの選定の理由につきましては、これまでの審議を踏まえて事務局でまとめていただき、次回8月9日の教育委員会会議で議案として提出していただきたいと思います。

○山根教育長 また、小学校用の教科用図書も含めて次回、令和7年度に市立学校で使用する教科書を採択しますので、よろしくお願いいたします。

○山根教育長 その他、各委員から何かございましてでしょうか。

(「なし」と発言する者あり)

○山根教育長 以上で令和6年第16回教育委員会会議を終了いたします。お疲れ様でした。